京城日報

二十七日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金六拾五錢（郵稅共前金）三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金三圓七拾錢
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲欄內定一行金壹圓貳拾錢 ▲三號活字…
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奧田直毅 印刷人 谷口政太郎
電話番號 編輯局三四五番 營業局二三六番 振替貯金口座京城三〇〇番

議會別電

▲貴族院豫算分科會

二十六日午前貴族院豫算六分科會に於て荒井政府委員より五年度財政計畫の概要豫算の大體を說明し先づ歳入に關する質問に入り藤田四郎氏は國稅增徵收後の狀況及び增徵土地法稅率減額の關係天日製鹽の狀況、酒稅沿革在來の朝鮮酒及日本淸酒の造石高等に關し、淺田主査は各道の地稅率に關し、稻垣子は精蔘(人蔘)狀況其販路に關し東鄕男は鹽の需給狀況の天日製鹽の關係鹽專賣に關する所見、鹽を工業原料に使用する計畫の有無等に關し、小松謙次郎氏は財政獨立計畫に關する豫想と實際、鑛林、平壤鑛業所經營の狀況、煙草稅鑛業稅の狀況、煙草專賣關稅改正に關する所見、阿片政策及び其變更理由等に關し、荒井泰治氏は關稅噸稅の減少に關し、河村讓三郎氏は登錄稅の狀況、財源調査と歳入計畫の關係等に關し各質問あり荒井政府委員其々答辯し之にて歳入の部を終り午後より歳出に入りて質問する筈

午後一時午前に引續き貴族院第六分科會を開き藤田四郎氏は歳入の追加質問として米價下落と朝鮮經濟界、殊に納稅人に及ぼしたる影響及內地の如く租稅延納の儀なきや否や米價と驛屯土の減免の關係を質問し次で歳出の質問に入り、稻垣子爵は水產發展の狀況及び獎勵費との關係朝鮮に於ける醫療機關の狀況及び衞生の施設、安場男爵は驛屯土管理の狀況、藤田四郎氏は朝鮮人間島移住の狀況及び其取締に關し又現在の領事館に總督府官吏を兼任せしむるよりも事情に通ずる總督府官吏に領事官を兼任せしむる意向なきや、內地人及び朝鮮人敎育の方針、天日製鹽と煎熬鹽との關係及び其生產費、中央試驗所事業狀況、金及び鐵生產の狀況、製鐵所設立計畫の狀況、鴨綠江森林益金は少なきを失せざるや及び資本の狀況、小松謙次郎氏は朝鮮統治の現況及び方針、李王家歳費の狀況、裁判監獄費增加の事由、土地調査事業計畫の概要及び總經費調査完成後の効果、警察費と治安の關係、支那の動亂と鮮民の影響、朝鮮又は關東州に定繫港を定めたる日本船舶の取扱及び其內地關稅逋脫に對する取締、河村讓三郎氏は裁判監獄費と內地に於ける同經費の比較併合後の今日尙現在の司法制度を維持する必要ありや、內地法律引用の現況、共通法規制定の經過、警察機關機密費と檢事機密費との關係、民籍費の內容、淺田主査は內地人朝鮮人結婚の場合に於ける身分上の取扱及び同化政策との關係、東鄕男は鎭南浦築港の批難に對する事實及び其善後策に關し質問あり、共通法規の質問に對しては高橋法制局長官より其他は荒井政府委員より答辯あり明日も引續き質問ある筈(總督府著電)

○內閣の運命 別種の觀測

政府對上院の確執は未だ歸一點を發見するに至らず政局の前途は愈々切迫し圓滿に解決を告ぐべきかそれとも遂に衝突を免れざるべきか猶形勢混沌たりと雖も孰れにしても現內閣の運命盡くるの時節到來せるものと觀測せらる(東京電報)

○各派と兵器豫算

上院に於ける各派は兵器豫算案を無事通過せしむる代り附帶條件として兵器費却會計法違反に關する政府の不當を建議案として提出するに一致せりと(東京電報)

○削減案と延期說 海軍補充案と上院

海軍費削減案提出され又貴族院の一部に海軍一年延期完備論あり爲めに海軍當局は大に憂慮し居れり(東京電報)

○北軍溯江して重慶に向ふ

宜昌發電に據れば北軍第七師團全部及び第三師團の半數は二十二日迄に當地を發し溯江して重慶に向ひ司令官曹錕氏も溯江せり第六師團及び第三師團の半數は岳州より常德に進めりと(北京特電)

○雲南軍重慶を衝かん

成都發電によれば雲南軍は敍州北方に進軍し戰鬪は繼續せり情報に據れば蔡鍔の軍隊は道を貴州に取り直に重慶を衝く計畫なり之に對し重慶の北軍は二千八百名なり重慶占領さこは四川の運命を支配すとなし多大の注意を集め居れり(北京特電)

○獨逸對日本媾和希望

デーリー、ニュウス紙の所報に據れば紐育サン紙ワシントン特派員は極めて確實なる筋より探知せりとて曰く獨逸は日本との單獨媾和を希望しつゝありと(倫敦電報)

○黑山國全部墺に歸す

羅馬來電に曰く黑山國は全部墺軍の手中に歸し黑山國軍はデュラフオに退却せり(倫敦特電)

◎北鮮より

▲淸會鐵道工事 淸會鐵道工事の近況を聞くに結氷期に入りてより一般路盤工事は休止するに至りたるも鐵道工事は依然續行しつゝあり

淸會線第一の難工事たる茂山嶺隧道工事は七箇所の隧道中旣に第四、三、二、六號の短距離は逐次貫通して餘すは長距離なる第一、五、七號の三隧道のみなり旣に貫通せるものは掘穿の端より內壁煉瓦卷を續行しつゝあるが現在七隧道の從業人夫は約二千人に達せり、又た未貫通の三隧道現在の掘鑿工程は第一號約八分第五號約七分第七號五分強にして三隧道の中最も困難にして長時間を要するは最長距離たる四千三百四十三呎の第七號隧道にして同隧道は堅岩擬の中最新式と稱せらるゝハンド、ドリルを使用し東西兩坑より掘鑿しつゝあるが同岩質は堅緻なるものに拘らず尙ほ一日東西三呎位宛の進捗を示し居れり三工區の竣工期は大正六年五月なるも請負者は本年結氷前に於て之を完了せしむべく努力し居れり

▲露領出稼鮮人 昨年中露領出稼鮮人の浦鹽より海路淸津へ歸來者數及び其携帶金に就て淸津警察署の調査に依れば歸來者は男四千二百五十九人女二百七十八人計四千四百六十六人にして其總携帶金四十二萬四千三百七十一留に達せり而して此等鮮人原籍地は咸北道內三千八百九十九人其携帶金三十四萬六千八百十七留、咸北道外なる江原慶尙平安間島咸南地方のもの五百六十七人其携帶金七萬七千五百五十留なり又た歸來鮮人中證券を有せざるものは三千六百十人の多數にして約八割を占めたり今四年中の歸來者を前三年中歸來者二千二百五十四人其携帶金二十八萬四千八百七十一留に比すれば人數に於て二千二百十二人金額に於て十三萬九千五百留の增加を示せり本年に至り歸來者の多きは時局の爲永住鮮人は補充兵として徵集さるゝに至りしより之を忌避するの結果なるが如し

▲咸北國境貿易 大正四年中に於ける咸鏡北道國境貿易額は輸入二十六萬八千五百九十圓輸出五十五萬二百六圓計八十一萬八千八百圓にして之れを大正三年中の貿易輸入二十七萬二千五百三十九圓輸出五十三萬四千六百三十九圓に比すれば輸入に於ては三千九百四十五圓を減せるも輸出に於ては一萬五千五百六十七圓の增加を示せり之れ輸入に於て前二年打續き對岸の凶作なりし結果穀物の輸入減少し輸出に於て生牛の輸出が未曾有の盛況を呈したる爲め他の輸出品が幾分の減退を見たるに拘らず總額の上には增加を見たるものとす而して輸出入重要品は輸出にありては生牛大牛を占め次で雜貨魚類等なり輸入にありては木材を第一とし次に粟黍等の沒落農作物等なり

▲咸北牛價騰貴 昨年九月頃より下落せる咸北地方の牛價は遂に內付三十圓見込みの牝牛一頭十四五圓迄低落し爲めに混雜を來し畜牛の前途を杞からず憂慮せしめたるが十二月中旬頃より三四圓方騰貴して稍々恢復の氣勢を示し本月に入りて益々暴騰し一頭二十二三圓を唱へ從來の普通價額より却つて幾分の高價を示すに至れり(元山)

◎鮮內の恩赦人員

鮮內の恩赦人員に就き其後の狀況を聞くに百三十八名は旣に上奏濟となり、四名は目下上奏の手續中にして他の三十八名は不上奏決裁濟となり若くは不上奏手續中のものなれば結局恩赦に浴す可き者は目下の處百四十二名なりと

◎練習艦隊午餐會出席

練習艦隊吾妻、磐手の乘込員は二十八九の兩日入京の筈なるは既記の通りなるが松木司令官は當初政務總監招待の午餐會を謝絕したるも其後出席のことに決せる由なれば艦內に於ける政務總監以下長官局長等の招待會も亦自然舉行さるる可し

京義線より　山崎珂水

二十六日、曇天、一夜にして四溫に入る、防寒具は悉く殘して著のみ著のまゝ京義線に飛乘る、昨夕刊より我が京日の紙面一變、新しくなるの誇きは單り盤に限らずなど思ひつゝ今朝の新聞を讀了し、一睡夢覺むれば開城なり、踐捉觀異として滿目荒寥、桃の開城など想ひも浮ばず、土城驛を過ぐること數分程、廢墟の畔に墓碑數基相列べたるを見る、地形を案ずるに山東西より迫りて狹を作す、而して眠れる勇士は誰れ。雉子一羽汽車に驚いて廢墟より起つ。新幕より微雨。(汽車中にて)

◎三百株に一株

染料會社株應募數未曾有の多數に上りたるを以て申込三百株に對し一株を割當つる事に決せりと(大阪電報)

◎仁川通貨流通狀況

十二月中朝鮮銀行仁川支店に於ける市場より受入高は八十二萬七千八百餘圓市場へ拂出高は百三十七萬一千三百餘圓にして結局五十四萬三千五百餘圓の拂出超過を來せり今之を前月と比較すれば受入高に於て二十八萬九千八百餘圓拂出高に於て三十七萬五千餘圓の激增を見たり銀行券の發行は六十九萬圓にして前月に比し二十二萬圓回收は二十萬圓にして前月に比し十七萬五千餘圓の增加なり如上の如く市場への拂出高及び銀行券發行の著しく增加せるは前月に引續き米穀資金及び年末節季の決濟資金として需要を喚起したるものにして又た日本銀行券交換支拂高は四萬二百餘圓にして前月に比し一萬八千餘圓を增加せり內支那人への交換支拂高は三萬三千五百餘圓にして前月に比し一萬一千餘圓を增加せり是れ全く山東省歸國支那人多數ありたるに因る更に通貨の流通狀況は前月と大差なく米穀買出資金として著しく一圓紙幣及び小銀銅貨の需要を喚起し供給の伴はざりし狀態なりし爲也

◎大邱若木間改築期

京釜線改良工事の一部にて五年度に亘り新洞驛より若木間を改築する事は前定の方針なるが斯くして大邱新洞間を拋棄し鐵道局は玆に見る所あり本年より五年度に亘り更に該線を大邱より若木驛まで延長不日工事に著手すべし

▲軌道敷設 京釜線改良工事中若木驛より飛尾までは己に軌道敷設を了し飛尾より大新を經て金泉に至る間は一時工事中止の姿なりしも愈々今月末より砂利敷及び軌道敷設に著手すべしと(大邱)

◎露貨下落

日滿聯絡貨物引換代金換算率朝鮮鐵道著の場合には一月二十六日以降邦貨百圓に付き露貨百八十留に協定せられたり

◎古海參謀長歸任

南鮮守備隊視察中なりし駐劄軍參謀長陸軍少將古海嚴潮氏は松浦參謀を隨へ廿七日午前八時四十分龍山著歸任したり

平壤

▲平壤牛屠殺激增 平壤屠獸場に於ける昨年中の屠獸狀況を聞くに生牛價格の低廉なるに反し牛皮牛骨は暴騰に亟ぐに騰貴を以てしたると急激に屠獸營業者增加したる爲め例年に比し著しき成績を舉げ得たり大正三年に比較すれば左の如し

	大正四年	大正三年
牝	一、二二〇頭	三四五頭
牡	四、八一八頭	二九四二頭
計	六、〇三六頭	三二八七頭
斤量	二、七八九、〇一六斤	二、四一二、二五三斤
價格	二〇一、五二一圓	一六一、〇五六圓

即ち頭數に於て二千七百四十九頭價格に於て四萬四百六十五圓の增加を示し今後尙益々增加の見込なりと而して平壤屠獸場は從來の屠獸數にては餘裕綽々たりしも歐洲戰亂勃發以來俄に狹隘を告げ其擴張の必要を痛切に感ずるに至りたるを以て府當局者は大正五年度の計畫として府財源の膨脹に伴ひて同所の擴張を計る由

▲久世聯隊長送別會 平壤駐在六十七聯隊長久世爲二郞氏は今回第七師團參謀長に榮轉し近々赴任の途に就くを以て平壤在住官民有志は二十七日午後四時大同館に於て送別會を催したり

▲鎭南浦電氣擴張 鎭南浦電氣株式會社の電氣は電力弱き爲め屢々需要者間の批難を蒙りたるが同社も今回久原製煉所の如き大需要の增加もあり傍々深く鑑みる所ありて今回吸入瓦斯發生機二臺を增加して四臺となし中一臺は豫備として今後は充分供給力に餘裕あらしむ可しと

大邱

▲風紀全く改善さる 慶北達城郡公山面智妙洞は從來洞內の風紀紊亂し賭博又は飲酒に耽る等の弊害多かりしが同洞權鍾昊及び崔性述の二名は之が改善の方法を講じ自ら發起人となり洞內の青年四十八名を勸諭して農學契なるものを組織し各自義務を以て一箇年金五十錢宛を出捐貯蓄せしめ尙ほ契員中無敎育者二十五名に對し夜學設備を爲し漢文諺文等を敎授し又契員全部は每月陰十五日三十日の二回に契會を開き修養上に關する談話を爲し又一方には洞內の火災盜難事件勃發に際しては應急救助の規則を設くるなど專ら洞內風紀の改善に努め居たりしが爾來一年に滿たざるも其の効果顯著頓に賭博飲酒等の弊風全く絕えたりと

湖西行(第四信)　奥田鯨洋

二十六日午後十二時半公州を發す、實は同地より扶餘に向ふ筈なりしも、前夜小原長官を訪問せし際、公扶間寒けの爲め、道路頗る惡しく、今日などは自轉車の通行漸くなれば自動車は思もよらず、人力車は時間を空費する事甚し、舟運の便も皆無也、馬背ならば可なれど大に閉口せざるを得ず若し朝鮮馬に乘らんか却つて人力車に如かず扶餘に著するも視察の時間なきを奈何されば直に行程を變更し論山に向ふ、道坦にして、自動車の早き事矢の如く、車中好獵の朝鮮紳士と乘り合せ、談敵比なく、忠南の獵界を聞く、紳士說く處詳かにして細微、且つ路傍より雉姫の飛揚する、雀群の如く、歡興を盡して、途の長きを忘る、一時半論山著、驛にて出張中の齋藤警務部長と邂逅、袂を分て江景に向ふ即ち公州にて敎へられし如く、此地より小舟に賃して、白馬江を遡江し、扶餘に至らんとす、途中西江景警察署長と邂逅し、伴はれて三時前江景に入る、直に各所に敬意を表し、三南殖產の精米所を見安永旅館に入る(江景より)

▲昨紙湖南行とせるは湖西の誤也

▲慈惠醫院巡回診療 今回大邱慈惠醫院にては第二回巡回診療をなす筈にて日割は左の如し

診療地	開始豫定月日	閉鎖豫定月日
榮川郡順興面	一月三十日	二月十二日
青松郡眞寶面	二月十六日	三月一日
軍威郡義興面	三月六日	三月十九日

出張員 醫員 江波清吉
同 醫務介輔 崔宇燦
豫定發月日
一月二十八日順興面到著二月十四日出發
二月十五日眞寶面到著三月三日出發
三月四日義興面到著三月二十一日出發

▲金醴間自動車開通期 今回金泉醴泉間に自動車の運轉を爲すべく其筋の認可を得金泉憲兵分隊長下士一名警察主任金泉支廳判事及び運轉手共五名の乘組にて二十三日試乘を行ふ事となり同日は午前八時四十五分金泉を發し途中尙州咸昌に各十分間停車し運轉時間二時四十三分を要し午前十一時五十五分醴泉に着し醴泉發同日午後二時卅分醴泉を發し尙州に停車し運轉時間二時四十八分にして同五時十八分金泉著此の間往復に要せし揮發油の消耗料一斗五升價格五圓四十三錢なりと因に來る二月一日より營業を開始する豫定なり

尙州より

▲總監部警視 永野警視は巡査一名を隨へ會計事務視察の爲め二十四日醴泉より來尙一泊金泉に向け出發▲副官來尙 中山副官は管內巡視の爲め本月二十五日開慶より來尙加賀屋旅館に投宿二十六日金泉に向け出發▲玉山道路修繕 砂礫敷修理として地元民客荷馬營業者に賦役を課し去る二十四日より作業に著手三十日迄終了の筈▲普通學校父兄會 去る二十日より一週間校內に父兄會を開催し父兄敎員生徒の打合をなしつゝあり

釜山

▲釜山水產組合配當 釜山水產組合にては二十五日南濱待合亭に於て定期株主總會を開き大正四年度營業及び決算報告及び今後の方針等を附議せり利益金は一株に付金七十五錢(一割)に決定せり

▲釜山商銀配當 釜山商業銀行にては二十五日午後同行樓上に於て定期株主總會を開き大正四年度下半期決算及び營業報告、財產目錄貸借對照表の承認を求む利益金配當は年六朱に決定せり

▲大原氏母堂追悼 釜山水產組合長大原庄太郎氏母堂は二十四日永眠せしにつき水產組合發起の下に二十六日大廳町知恩寺に於て追悼會を催せり

人事消息

▲ハートキンソン氏(駐國駐在英國大使館附武官) 廿六日午後內地より釜山發急行列車にて北行
▲野村義雄氏(主計少監) 廿六日午後內地より釜山著鳴戶投宿廿七日午前馬山へ
▲緣越豐顯氏(釜山海事出張所長) 平壤丸臨時檢査及び海難調査の爲め二十六日大阪に出張を命ぜらる
▲岡田虎輔氏(專賣課技師) 葉煙草狀況視察の爲め二十七日忠州に出張
▲水谷猶雄大佐(平壤鑛業所長) 二十七日午前八時入京南山尾張館へ
▲青柳機關中佐(練習艦乘組) 二十七日午前九時十分南大門驛發平壤へ
▲古城副官(軍司令部) 二十七日午前八時三十分發列車にて東京へ

□黑山國妃蒙塵を詠む

阿母と別る動く汽笛を氷る月　虎耳
落ち玉ふ月氷る夜の御訣別　大塊

社告

記者 金谷眞

右地方狀況視察のため元山方面へ出張致させ候間同地方愛讀者各位に謹告仕候也

京城日報社

第九期決算報告 (大正四年下半期)

貸借對照表

負債ノ部

科目	金額
資本金	五〇、〇〇〇、〇〇〇
法定積立金	六五〇、〇〇〇
別途積立金	壹、壹〇〇、〇〇〇
家屋減損積立金	貳〇〇、〇〇〇
繰越金	七貳七、參八〇
有價證券保證金	參〇〇、〇〇〇
貸方勘定	五、〇九四、五壹〇
受入金	參、〇五〇、〇〇〇
當期利益金	壹、貳四五、參六〇
合計	六貳、參六七、貳五〇

資產ノ部

科目	金額
未拂込株金	參〇、〇〇〇、〇〇〇
家屋	參、〇〇〇、〇〇〇
什器	八貳參、〇〇〇
有價證券	五、參〇〇、〇〇〇
受取手形	貳壹、八〇〇、壹四〇
貸方勘定	參九七、九六〇
當座預金	壹、〇四參、七九〇
金銀	貳、參六〇
合計	六貳、參六七、貳五〇

損益勘定

一金四千五百四拾五圓九錢 當期總益金
一金參千貳百九拾九圓七拾參錢 當期總損金
差引金千貳百四拾五圓參拾六錢 當期純益金
一金七百貳拾七圓參拾八錢 前期繰越金
合計金千九百七拾貳圓七拾四錢
此ノ分配案左ノ如シ
一金壹百圓也 法定積立金
一金壹千圓也 別途積立金
一金壹百圓也 家屋償却金
一金壹百圓也 什器償却金
一金六百七拾貳圓七拾四錢 後期繰越金

右之通リニ候也
大正五年一月廿一日
株式會社 京城競賣會社
專務取締役 池田長兵衞
取締役 三好和三郎
取締役 增田三穗
取締役 小林藤右衞門
取締役 永井新之助
監査役 釘本藤次郎
監査役 篠崎半助
右調査ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證候也

新刊書御案內

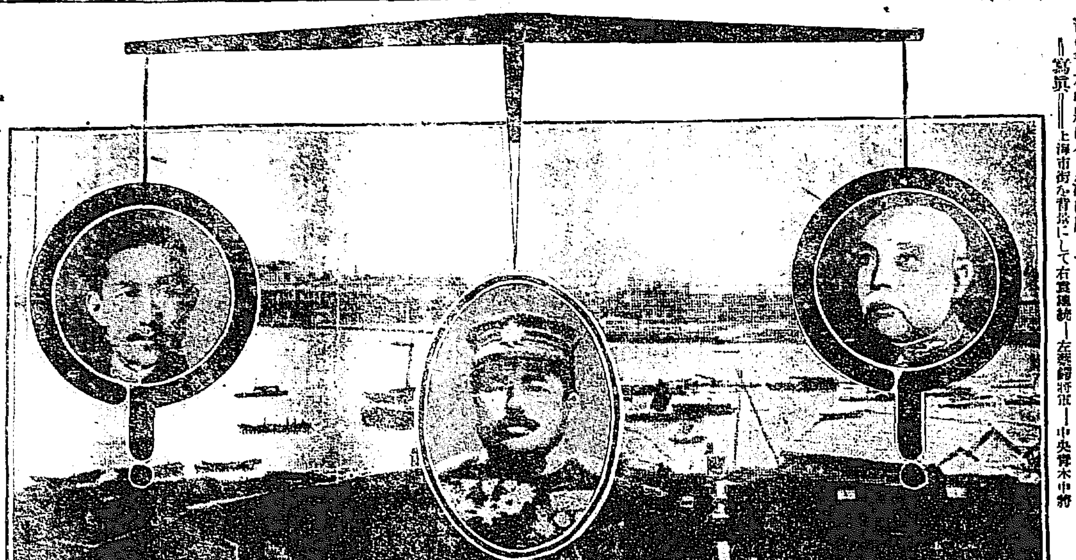
書名	著者	定價
日本書畫骨董大辭典	池田常太郎	特一二、〇〇
格言大辭典	芳賀服部安井	特二、〇〇
肥料的麥作改良法	鈴木千代吉	二、六五
小學校に於ける敎育敎授の實務	澤正	一、五〇
小賣商店廣告法	清水正己	九〇
新用新聞雜誌廣告術	寺良	五〇
新論語	村上俊藏	特一、二〇
通俗講話四季の衞生	林心五夫	八五
新家經濟中流生活法	嘉悦孝子	八〇
我等何を爲す可きか	加藤一夫	一、六〇
隱元、木庵、即非	高橋竹迷	一、〇〇
詩傳乃木大將	兒玉花外	八〇
日蓮上人	熊山琴城	一、二〇
戀の秘訣	紅葉隣人	五〇
女性中心說	レスターウオード	七五
貧乏と戀と	安成二郎	六〇
歐州文壇印象記	野口米二郎	一、〇〇
虞美人草	夏目金之助	一、二〇
鏡花双紙	泉鏡太郎	一、三〇
朱葉集	[illegible]	一、〇〇
踊	[illegible]	八〇
十字路	井大	一、二〇

大阪屋號書店 京城本町電話二〇八 振替京城二五七三

●大勉強仕候● 淺草海苔 東京府下大森町 電話大森四一一番 藤森商店

秤は何方へ？

□秤は何方へ？―支那の共和政治が稍落付いてものになりかゝつて來た時、突然帝政にしやうと袁總統は力み出しました―其んなことを言つたところで、國内に爭亂は起きないつもりかと日本から訊ねました。―大丈夫起きないと袁總統は答へました―ところが突然雲南に蔡鍔將軍が巨兵を擁して帝政反對の旗を飜しました―北の方が強いか南の力が強いか兎に角見物です―日本の參謀本部の青木中將は今上海に居ます―寫眞―上海市街を背景にして右袁總統―左蔡鍔將軍―中央青木中將



贈つた美姫と邸宅 世界擾亂の代價＝獨逸の賄賂

紐育來電―ピッパークレスタッチ歐洲特別通信員ボルダーストン氏の計算に據れば獨逸が中立十五箇國に親獨主義傳播の爲め賄賂等に費やしたる金額は七千二百五十萬磅にして其詳細なる報告中には波斯國王に美姫支那官憲に宏莊なる邸宅希臘辯護士に自動車を贈りたる等の事實を指摘しありたり（倫敦電報）

夢と消えた義勇軍 袁總統を種に一儲けする計畫

福島縣西白河郡五箇村深谷亥次郎、奈良縣添上郡馬方村川口平助、熊本縣天草郡本渡村津田淺三、栃木縣上都賀郡今市町高橋照義、山梨縣南巨摩郡下山村石川應介、宮城縣黒川郡大谷村村山吉貫の七名は一月上旬張店今村旅館に會合し袁總統を昇ぎ上げて一儲せんと南支那討伐義勇兵募集の趣意書を草案し章邱縣地方に至り右の趣意書を支那文に譯し土民に配布し之れを種に支那官商民を脅迫し金員を貪らんとせしも支那旅館主より同地官憲に密告され直ちに當濟南領事館に護送され取調べの結果二箇年間支那在留禁止を命ぜられたり因みに深谷は自ら雲南討伐軍義勇團司令官と稱し村山吉貫を參謀長となし高橋照義を副官に任じ夫々職名を附し居れり（濟南特電）

牛心臺炭坑を襲撃す 慘虐を極めたる支那人の暴行

邦商和盛公司の牛心臺炭坑の小南坑を二十三日午後七時土民巡警及び保衞團の一群百餘名襲ひて發砲し邦人十一名の内二名を銃殺し其他に重輕傷を負はし建物を徹塵に破壞したり急報により本溪湖より守備兵百名憲兵四名巡査十一名支那巡警六名臨時列車にて現場に急行せり原因は土民及び保衞團員の石炭窃盜を禁止するため監視場を設けたるを恨み不法にも報復に出でたるものにて之には本溪湖の縣知事及び巡警長も關係ありとの事なり尚は別報に曰く二十三日午後五時本溪湖西北七哩の地に在る牛心臺炭坑事務所に支那巡警及び保衞團一隊並に二百餘名の土民襲撃し居合せたる邦人七名に重傷五名に輕傷を負はせ尚負傷者津本安吉を荒繩に縛し將に慘殺せんとする所に急報により守備兵六十名警官十二名憲兵三名支那巡警六名來り暴徒を擊退して津本を救ひ負傷者は即時滿鐵病院に收容して治療中なるが原因は目下取調中なり（大連特電）

追濱より敦賀へ 關ケ原山中の湖水にて小憩

追濱なる海軍航空隊にては不日大飛行を決行すべく種々協議の結果愈々計畫決定し近日中に詳細發表すべきが右計畫は追濱飛行場より越前敦賀に至る大飛行にして本月上旬を以て二機相前後して飛行を決行する筈なるが其の航路は大體追濱より東海道線に沿ひ岐阜縣關ケ原に出で更に敦賀に至るべし關ケ原山中の九十九池（面積約四町歩）を以て着水場に充つべき旨決定し夫れ〴〵既に關係要所に通知したるが搭乗者は桑原磯波兩中尉なるべしと（東京特電）

四刑事、怪賊と格鬪す 懷中に潜めたる鋭利なる兇器の數々

近來京城及び龍山の内地人居宅に頻々たる盜難被害あり殊に内地人の相當家庭のみを荒し廻る形跡あるは頗る甘道に巧妙なる賊の仕業なるより京城本町署に於ては豫て之が檢擧に苦心し二十六日棚橋平林笹村重久の四刑事は夫れとなく二手に分れ平林重久の兩刑事は午後一時頃京城黄金町の電車停留所より電車にて黄金町方面に進行中東洋拓殖會社前に差蒐るや

▲鳥打帽子を目深に被りインバネスを著たる一人の壯漢東拓會社横の道路を明治町筋へ向け足早やに逃走するを認めたる所豫て注意中の男に類似し居るより此奴怪しと直ちに電車より飛び下りて重久刑事は後方より追跡し平林刑事は裏筋より横路に入りて兩方より取押へんとしたるに件の曲者は一目散に逃走を企てたるより急遽追跡したるに彼は早くも

▲懷中より兇器を取出さんとする氣配見えたるより兩刑事は直に雙方より曲者の兩手を確かと握りたる上傍らの空家に曳き摺り込みて難なく取押へたる上捕縛し本署に引拔したり此奴は最近永登浦監獄を出獄したる

▲前科數犯の賊 山木利三郎(三八)といふ者にて目下本署に於て嚴重取調中なるが同人は其際懷中に鑿、鋸、剃刀、錐、小刀の四品を隱し持ちたるものにて隙あれば切つて蒐らんの氣配なりしと右の兇漢が檢擧されたる間もなく共犯者の他の一名も京城に入り込みたる形跡あるより道回は平林笹村の二刑事同日午後五時頃北米倉町の

▲路次を密行中 豫て目星をつけゐたる犯人らしき一名の男がマントに鳥打帽子を眼深に被りて通り蒐りたるに出會したるより直ちに振返りて誰何したるに件の曲者は俄かに踏み止りて隱し持ちたる兇器を振翳さんとしたるより平林刑事は直ちに組付きて胸倉を確かり握りたるも

▲賊は腕力強く 極力抵抗して揉合ひながら格鬪し相手の兇器を取出さんとする隙を見て笠村刑事は捕繩を打掛け辛くも逮捕することを得たり折柄夕刻のことゝて見物人は人の山を築き通行杜絶の有樣なりしが本署に引致して取調ぶると此奴は懷中に滴る計り

▲鋭利なる短刀 特製の鋸、剃刀の三器を携帶し居れり同人は前科七犯の兇賊にて筒井平三郎(三九)といふ者と判明したるが前記兩名は共謀して京龍の内地人宅を荒し廻り前記の如き兇器を使用して各戸に忍び込みたるものゝ如く目下本署に於て嚴重取調中

大同江の解氷

十四日の凜烈なる寒氣の爲めに大同江上流（寺洞鑛業所附近）は渉跡に堪ふる迄に結氷し平壤附近又薄氷全河面を蔽ふに至りしが十五日來の暖氣の爲め寺洞附近は中流に暗黑色の水面現れ平壤附近は兩岸僅かに薄氷の張り居るを見るのみにして此處二三日暖氣の儘に經過せば全河殆んど解氷するに至る可し（平壤）

嫉妬して毒を飲む

釜山本町一丁目卅四番地篠原源太郎(四十)の妻たか(四二)は二十四日自宅に於てアセサンを服用して自殺を圖りしに家人の者發見し醫師を招きて應急手當を加へし所一時は命取止めたるも遂に死亡せり原因は夫源太郎が他に情婦を持ち家内に波亂を起し嫉妬喧嘩の末世を果敢なみたる爲めなりと

八百圓を拐帶

慶尚北道慶州郡江東面良洞里十一統の二戸居住李留源(三七)方同居李東根は頃李留源の他出せる隙を窺ひ同人所有の實印並に現金八百圓を拐帶し何れにか逐電したるを後にて李留源が知り早速八方に手分けし所在を搜査したるも判明せず近頃に至り李東根は全州署管内に潜伏せる形跡あるを聞知し李留源より全州署へ同人の所在搜査取押方を依賴せり（全州特電）

觀世合同謠會

京城に於ける觀世流の各會にては例年の如く新年の初會として合同謠會を來る一月六日壽町有明樓に開催すべく當日は各會一流の謠手の出席ある由

怪談熊神物語 狗峴嶺上の實見談

鴨綠江上流地方を旅行中の駿城君は平北渭原郡と江界郡の境界海拔二千七百尺の狗峴嶺上から實見した處であると、次の如な不思議な通信を寄せた此の附近一帶の寒氣は[illegible]零下二十度内外を昇降して居る、此の狗峴嶺から一里許東方に旅盤山と云ふ山が有つて山頂に近く旅盤寺と云ふ寺が建つて居る數年前までは二人の老僧が居つたが老僧歿後は無住寺となつて荒れ行くばかりである、此の山には不思議な大熊が住んで居つて山頂へ登る者があると大いに怒つて暴風雨を下し巨大なる雪を以て登山者を打殺すと傳へられて居る、よし打殺されるまでなくとも登山者が有れば如何なる晴天でも必ず暴風雨の來る事だけは間違なしである、處が件の熊は折々人里を下つて人畜に危害を加へる事が有るが害を被る者は何れも善人では無いそうである、故に里人が怖れて熊を神として崇め此の神熊の被害を受けた者は其比類稀なる巨大な足跡に由つて分るのであるが過日も江界郡草面内泉洞某方の番犬は此の熊に打殺されて居た、飼犬の主人は大いに之を憤り愛犬の讐を討たんものと親戚朋友の者にて選りし屈強の男五人を語らい件の犬の生皮を剝ぎて靴代りに穿き、各々手馴れの銃を提げて登山し、其の夜は山頂に在る旅盤寺に一泊し翌日早朝寺を立ち出で例の熊穴に向つて進行中其の熊穴の前方二三十歩の處で五人共横に列を正しく跪いて居た、廿翌日に成つて五人共歸らぬので村民共は騒ぎ出し大舉して山に上つて見ると五人共其の熊穴に向つて銃を杖に突立て、禮拜して居る形で死んで居たので何れも喫驚仰天して死屍を取片付け[illegible]しき晴天であるにも係らず日は大吹雪であつた、五人の男共は大方凍死したのであつたらう

史外傳 風雲兒（六） 京城時代の袁總統

▽戀の囚となる

南洋艦隊來航＝外交團一杯喰はさる＝花形公使＝三鞭酒の計略＝美妓尹蘭琦の艶容＝慘憺たる苦心

斯うなると朝鮮上下恐怖は一方ならぬもので有つた。折りから仁川へ支那運送船が二隻入港して其の船には支那兵が滿載して居ると云ふ飛報が來た、更に其の翌日宮中を震駭させたのは支那南洋艦隊五隻が仁川へ入港したと云ふ飛報が來たことである、愈々朝鮮政府は驚き恐れて又もや彼を宮中に迎へ其の取るべき方法に付いて意見を述べられんことを懇請した。袁は然らば常に外國使臣等と往來し今回の如き事件を惹き起した別入侍の罪を糺すべしと

▲即日別入侍十名を流刑に處せしめ支那政府に對しては謝罪の特使を出す事を勸めた。此時彼の宮中に於ける勢力は其の死命を掌握して居るといふ點で絶大無比であつた。一方各國公使は何れも不安の念に驅られ、米國公使は仁川より水兵を上陸せしめて公使館を護衞せしめ、又外交團は彼に對して支那の出兵に就て推問狀を發した。然るに彼は外交團に對して、仁川入港の運送船に搭乗して居る壯丁は兵士に非ずして鴨綠江近傍の電線修理の人夫であつて其取締りの爲に陸兵が襲らか付て居る事、而して軍艦は

▲演習の爲め仁川へ寄港して炭水の積込みをするのであると事實を以て答へたので、各國公使館は今更ながら騒擾の馬鹿々々しさに苦笑せざるを得ず、朝鮮政府も抵に嘴された樣な事件で流刑に處した別入侍の罪を宥して召還すと云ふ樣な滑稽も行はれた。しかし此の頃から彼の勢力は大いに朝鮮政府に加はると同時に何時となしに

▲各國公使とも交通往復して外交の仲間入りが出來たので彼は其の愛嬌と辯舌と金錢とを以て頻りに各國公使館員等と交際を求めたので、幾何もなく彼は

▲京城外交團中の花形として認められた。其人を魅するや盛に三鞭を拔いて酌み交し、客の醉ひ倒るゝに至らなければ止めぬと云ふ風であつたが、彼は曾て客より先に醉うて醉ひ潰れた事が無い。彼の使用人が後を外して人に語つたところによれば彼が客と共に飲むに當ては、豫め二通りの三鞭酒の瓶を用意し、自分は茶を用ひ、客にのみ眞の三鞭を飲まして居たといふことである、斯かる些細な事柄にまで彼の權謀は施されて居つた、此の頃より袁は朝鮮政府に對する不滿と外交團に對する不平とが萌々薄らいで心にゆるみが來たと共に彼は突如として

▲猛烈なる戀の囚となつた。彼は或時朝鮮王宮の夜宴に招待せられた。恰度春の末で若葉の香が人の心に柔らかく泌み入る樣な頃であつた。其の宴に侍した尹蘭琦と云ふ官妓の

▲露を帶びたる海棠の樣な風姿は太く彼の目を惹いた。歸邸の後も彼は其の姿をどうしても忘れる事が出來なかつた。茲に於て、彼はまた一策を廻らさざるを得なかつた。

演藝

▲壽座● 二十八日より二日間忠臣藏芝居の假名手本忠臣藏なり序より討入まで通し打通して演ずべくその役割は左の如し 列官、勘平妻となせ、顎作、清水一角（蝶三郎）おかる、石堂、定九郎（留三郎）お石（梅若）藥師寺、お才、や、平右衛門（梅藏）[illegible]

▲壽舘● 燕左衛門二十七日の語り物左の如し 神崎與五郎東下り（香右エ門）安兵衞婿入、春日若丁（むら雲）中山安兵衞義士傳（北海入道）女武士道二席（山本松子）伊達振子藤冠王長郎二席（燕左衛門）

▲浪花舘● 遊三一行二十七日の演題左の如し 兵庫船（三勝）常太夫、盆の曲（圓之助）たらちめ、手師（遊三郎）呑酒獸、作樂（千ほえ）物眞似、遊玉、萬術紙切（探陽）七段目（圓昇）新男十、滑稽琵琶（三尺坊）夢の瀬川、舞（遊三）

▲大正舘● 二十六日より新寫眞を差替へたり其の主なるものは左の如し 實寫サロニカの實況、滑稽人形の替玉、喜劇死頭の婚、正劇活劇黑裝束全三卷、新派家庭劇まごころ三卷、舊劇三猿男の俠客永樂衛太郎全三卷

革命軍と飛行機 急進黨員の氣焰

二十三日神戸發上り急行[illegible]

▲陳其美の幕僚 陳宗逵(三一)と稱すれど僞名なるもの如く我士[illegible]つて目下支那を兩替し之を携帶上京せるものにて目的は本邦にて二臺の

▲軍用飛行機を購ふと共に[illegible]れば今次の革命は最

▲急進青年黨員の手に依つて開始せられたるものにて[illegible]進め得べきが故に暫らくは老成輩黨員の力を藉るを肯んぜざるなりと（東京特電）

[illegible]の側に一角を發し都合五角を算する無類の珍牛となり附近界隈の見物人多しと（岡島特信）

廿六日午後釜山入港壹岐丸一二等客 古瀬亘一、先木助太郎、栗良次郎、松井伊作、三等（百五十二名）[illegible]

天氣は晴れ 一月廿八日 [illegible]

文藝倶樂部增刊 一月十五日發行 定價廿五錢 郵稅二錢

講談名家 三大長講

長篇 復讐奇談 關島重藏（七十餘頁）……桃道軒雲工
興味橫溢 小天狗霧太郎（六十餘頁）……小金井芦州
活躍 維新前後（九十餘頁）……伊藤痴遊

□龍膽録……思案外史
△明治裁判奇聞 辰年の女……迎月子
△眞珠の貝と鶴の枕……石井研堂
△藝妓花形七福人……吉丁字
△大阪江戸前二幅對……芦邊浦人
△初春の芝居めぐり……不龍軒
□明治懷古篇……變哲子

東京本町 博文舘

婦女界

若き母の遺稿（十一頁に亘る長文）愛兒を抱いて夜毎ゐる若き母の悲痛な秘めた長文の遺稿
□家庭に於ける慈父の價値（鳩山春子）
□萬引女は何故中流以上の家庭に多い乎（[illegible]）
□家庭迷信の掃除法（井上圓了）
□どんな肉が旨いか（澤村博士）
□家庭で出來る手輕な療法（中村松乃）
□子供を丈夫に育てる秘訣（[illegible]）
□子供の病氣と母親の注意（[illegible]）
□子供の病氣を豫防する法（吉田學士）

主婦の讀物
▲收入の減じた我家の生活法……（夏子）
▲月給四十圓の教員の家計……
▲新工夫をした商家の家計……
▲家庭で出來る染色法……
▲素人にも出來る小兒洋服……（宮崎いゑ子）
▲子供にも出來る手提袋……（津田敏子）
▲寒風に堪へる化粧法……（北原十三男）
▲舶來品に優る和製ココア……（一記者）
▲山家料理の味……（龜井まき子）
▲大根料理のいろ〳〵……（櫻井ちか子）

長篇小說 憂き身（手に汗握る大波瀾） 柳川春葉

◎二月號 本日出來 一冊十五錢 郵稅一錢 東京牛込加賀町一 婦女界社 ▲振替二〇二八三

皇后陛下各宮殿下御嘉納
國民新聞社編 定價五十錢 郵稅八錢本社負擔

理想の家庭

內容一斑

▲理想的家庭 德富猪一郎氏▲教育 下田歌子女史▲結婚 鳩山春子女史▲育兒 瀬川昌耆博士▲衞生 吉岡彌生女史▲交際 山脇房子女史▲住宅 伊東忠太博士▲中流の納戸と裁縫部屋 羽仁もと子女史▲室內の裝飾 井上秀子女史▲庭園 長岡安平氏▲園藝 鈴木武太郎氏▲臺所 入澤博士夫人▲家庭料理 赤堀峯吉氏▲家庭經濟 嘉悅孝子女史▲衣服 堀越千代子女史▲洗濯 宮川壽美子女史▲下婢の使方 加藤博士夫人▲家庭の娛樂 巖谷小波氏

本社は現代斯道專門の諸先生が我國家庭の改良向上を圖らんが爲に住宅の建築構造より、育兒、衞生、家事、經濟の事に至るまで、家庭に必要なる百般の事項を細大漏さず叮嚀親切に講述執筆せられたものであります。加之前記各題目の後には家庭便覽として家政上最も大切なる種々の心得を記載し、尚諸先生考案物の鮮明なる寫眞版を挿入してあります。主婦計りでなく家政研究中の女學生諸孃の是非共一冊を左右にせらるべき最新刊の良書でございます。

大取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

徐州第一軍司令部……結果同人は支那革命軍……一し來り神戸某銀行にて貨幣數十萬圓……とするにあ……京後京濱兩地に出沒して極力奔走中なるが同人の說によれば革命黨の手に依つて十分の成功を收……昨年頭上二角を生じ本年更らに二角……

ニコ〳〵の西の海

女房お桑の顔にも包み切れぬ嬉しさ

廿四日新番附編製會議に於て新たに横綱に推擧された西の海嘉治郎は本所緑町の自宅に訪問した、彼は超大なる體を二階十疊の室の大火鉢に凭せかけ女房お桑と共に嬉しき此日を何か閑談しつゝあつた、お桑は昌泉の藝妓家近江家の女將である數年前此の海と馴染き仲となつて一昨年當隅田山（今の出羽の海）の媒妁で入籍させたのである、横綱に昇進した祝辭を述べると西の海は唯今ニコ〳〵顔で出て來り『此の間から新聞に出てゐるのを見まして西の海が横綱になる事を承知致して何だか斯う氣でも狂ふやうに嬉しかつた』と相好を崩してゐる、又女房のお桑も包み切れぬ嬉しさに起居もソワソワして何かと忙し氣な樣子なり

が其以上の望みは有つてゐなかつた所が今回計らずも横綱に成れましたのは全く皆様のお蔭であります殊に亡つた師匠も横綱を張つた人ですから之れで師匠の位牌に對しても孝養になりますと語つた

▽二十年の辛苦△

西の曰く『私が力士になつたのは二十年前で父は田舍の草力士でしたが私は力士が大嫌ひで他人に力士になれと勸められるのが何よりも嫌やで堪りませんでしたが私の軀が大きい爲め度々勸める人がありまして當時代議士であつた羽生半右衛門さんから取分け力を入れて勸められたので遂に力士になる氣になりました、それで大關には成れると思ひました

▽律義一遍の男△

西ノ海の幼時小學校の教師をしてゐた西ノ海會員知覽氏は語る『西ノ海は小學校生徒時代は先生よりも丈が高く而も温和で學問は讀書の外は概して出來が惡かつた併し頗る律義な性に富んだ人で大關に成つた時始めて私が上京して彼に會ふと彼はアノ太つた膝でキチンと坐りイクラ胡坐せと云つても畏まつてゐる、それで先生何がお好きですと云ふから私は繪葉書が好きだお前は諸國を歩くから私に繪葉書を送つて呉れと云つたら行く先々で必ずそれを送つて寄越したのが今では何千枚と云ふ程に成り終ひには置き所がなくなつて了ひまして今年は斷りました程彼は朴訥で面白い男です』と（東京特電）

スタール博士甕の問答

趙重應子爵邸の淸會＝主客の快談

子爵趙重應氏は頃るスタール博士の朝鮮研究を多とし廿七日午前博士を自邸に招じて大に博士と快談を試みた、子爵は先づ朝鮮の文化言語及風俗習慣なるものが遠く中央亞細亞に負ふ處多く關係淺からざる說を持出し種々なる興味多き問題を提供した、而して之は自分一個の考へであるがと前提して『由來朝鮮の言語なるものは是を支那傳來の漢文に負ふ處が多く朝鮮本來の言語も其爲に餘程不純なものとなつて居る又古き風俗習慣や美術品なども今日までに度々外國の來寇等があつて其の間餘程の變遷があり殊に今日から四五十年前の諸外國との接觸を始め三四百年前の壬辰の役更に溯つては李朝と高麗朝の一變期等これ等のものゝ一大變遷期を經する時期が非常に多いのである、併し由來此の朝鮮人なるものは西藏、アフガニスタン等の中央亞細亞や蒙古南北滿洲あたりの人間と密接な關係があつて手近い所の支那とは餘り關係が無いやうに思ふ尤も南滿洲の遼東半島あたりは古來から淺からざる關係があつたやうだが自分は何うしても蒙古あたりとの關係が多いやうに思ふ、又今日の朝鮮人なるものが中央亞細亞の高原から南下した唯一の證據は今日鮮人の多くが藥水汲みと稱して山間の溪水を大事にする事である、之は詰り西藏邊りで雪山の雪を大切にするこか平素の飲料水を貴重した習慣が鮮にまで遺つた所以で先づ此所の庭にある水甕を見ても此の事がよく解ると思ふ……』といふやうな話から又自分も曾て露西亞に居つたが彼地の人が脚部に脚絆を著けた上を縄でグル〳〵捲き立てる習慣が朝鮮にもあるし又周衣の裁ち方なども朝鮮と蒙古と露西亞あたりと連絡があるなどの說が出ると博士も大に同意して自分も矢張り左樣に思ふといふ返事であつた、其の他子爵は高麗燒の珍品を澤多持ち出して『朝鮮の高麗燒は今から五百年以前既に露西亞に渡つて居る、其れは以前西比利亞方面に於て蒙古人の手を通じて貿易されたものであるから當時露西亞ではひたすら支那の陶器とのみ思つたらしい』と云ふ態度趣味ある談しは其れからそれへと發展したがお別れに臨み子爵は又高麗燒の皿を博士に贈つた　そして猶ほ支那の大甕までも貰らうと云ふと博士はその下に落ちた自分の手袋を拾ひながら『手袋までが甕の側に落ちた處では此の甕までも貰へとの謎らしい』とて莞爾として去つた

明日は横綱——西の海の力瘤

泌尿器病　腎臟病　膀胱病　淋病　梅毒　軟性下疳　皮膚病　專門　入院隨意（診察夜九時迄）　永樂町二丁目　光敎會隣り　安部醫院　電話四一九番

華園連枝遷化

眞宗興紹寺派連枝華園眞淳氏肺炎にて遷化す行年六十歳二十七日葬儀を營む（大阪特電）

鬼子母神大祭

二十八日午後二時鬼子母神大祭執行恒例の新年茶話會を催し福引其他の餘興をなす因に安産御守を授與すと

京城禁酒會新年親睦會

二十九日午後七時より旭町二丁目名古屋城にて開催餘興として三尺坊の禁酒講談ありと

岡氏令妹逝去

總督府土木課長岡今朝雄氏令妹は豫て病氣療養中の處藥石効なく遂に二十六日別府不老町谷別宅にて逝去せり因に岡課長は十八日より賜暇歸省中なり

一番評判ノヨイ信用ノアル　淺野セメントは　京城 高木材木店 一手特約販賣 [illegible]

台所　その日〳〵

△初音　一名鶯餅です　ほしい一合を袋に入れて水の中へ一時間程も浸けて置き後からかたく絞つて置く、鍋に砂糖百七十目入れ水を加へ火にかけ餡を加へ柄の長い御飯杓子で攪き交ぜて練上げ火から下して狙の上にあけ餡凡そ四十位に丸めて置く、次に白玉粉一升を鉢に入れ水三合五勺許りを少しづゝ加へとろりとしたものとし布巾の上へのせ蒸籠の中へ入れて十五分程蒸すと餅の樣になります之を鍋へ取つて火にかけ御飯杓子でかきまぜ二百目の砂糖を五六回位に入れ弱火で練つて所謂ぎうひを拵へます煉れたらばきな粉の皿にあけ程よくちぎつて前に拵へて置いた餡を包み少し長そく箸へ皿に盛りきな粉をかけて出します。

商況

債券現物特電（東京）

二十七日出來値段（前日との比較）

東洋拓殖	七二、五〇	
日韓瓦斯		
朝鮮銀行	一五八、五〇	
朝鮮瓦斯	一四、三〇	
南滿鐵道	一〇三、〇〇	

公債直取引（東京）

二十七日出來値段（前日との比較）

五分特別	八三、〇〇	
五分利公債	八三、九〇	
一回四分		
二回四分	九五、一〇	
甲五分		

深川在米特電

二十七日現在高

朝鮮米	一九〇、五〇八
外國米	八八〇、九〇八
内地米	二三〇、七〇〇

東京期米特電

	廿七日前場	
寄付	一四、〇二	
高値	一四、〇四	
安値	一三、七〇	
引け	一三、八〇	

大阪株式特電

株及大株更に安し

大阪三品特電

二十七日前場

一月限	一一九、〇〇	一二〇、四〇
二月限	一二三、〇〇	一二一、七〇
三月限	一二三、〇〇	一二二、六〇
四月限	一二九、〇〇	一二三、七〇
五月限	一二四、一〇	一二四、九〇
六月限	一二五、〇〇	一二五、六〇

大阪期米特電

下關期米特電

△二十七日前場

當限寄付	一三、五三
中限寄付	一三、八三
先限寄付	一四、五七

止め

賣買停止

朝鮮物産特電

馬山改良	三、三	釜山大豆
群山改良	三、二〇	慶山大豆
木浦改良	三、三〇	平壤中小豆
同改良	三、二〇	元山朔脚
群山特改	二、〇〇	鎭南浦大豆
同改良	二、〇〇	鎭南大豆
仁川改良	二、〇〇	龍山大粒
南浦改良	二、〇〇	長湍大粒
釜山上白		京城小豆
仁川中白		
仁川上白		

雜報

●洋紙眼先高　洋紙は原料パルプ及藥品の奔騰に連れ近來内地市價の漸騰せるは毎報に出でつゝありと雖當地又之と同一步調に出でつゝあるも當業者各自の間には印刷紙の如き高騰の原因は鮮人間の需要の多き等の關係より內地市價の上げ値割に比べ件以上の觀あり……

地殘て賣行しつゝあり少し幾分の上餘……十日前後に於ける相場と現在相場を比較すれば左の通りなるが最近の內地市價奔騰に顧み二十六日二三同業者値上の協議を爲し一兩日中に之が發表を見るべく之によれば二十錢乃至五十錢以上を唱へられつゝあり

十二月十九日發賣値段　現在値段

模造紙	呼斤	一三錢	一五
帳簿紙	同	一七	二〇
銀色紙	呼斤	八、五〇	九、〇〇
新聞用紙	連	三、三〇	四、〇〇

●空罐は混亂　石油空罐は當業者は大損せしが其後買止の報の如く大連市場買止の報に接するや當業者は大損せしが其後買止ある物の眞相確かならざるより中には種々臆測を異にし先行きを悲觀せる者或は見越し居れる者あり悲觀する向は斯の如き時にこそ全然買控へ方針に出で然からざる向は値頭によりて其中にも買溜めつゝある模様にて非常に見込みを異にし居れる爲め……

田中金物店

一手販賣　電話一二六八番　一五二番

●釜山米價小締る　暫らく軟弱氣勢を保ちつゝありし米穀市場も愈二十六圓臺に小締まりて十錢方小締まりたり

買入値段に付ても人により二十四五錢より三十二錢の間を唱へらるゝの狀態にて市況は閑散模樣の裡に混亂を極め居れり

●染皮の昂騰　皮革類は染皮の値持合ひつゝあるが獨りクローム皮は染料高殊に藥品のクローム酸の奔騰に連れ內地製品は本年に入り二回に約五六錢方の値上げとなれり

●白酒順次入荷　白酒は立釜印一回入荷あり既に小賣店への配給一巡了り引續き各店へ入荷の筈なるが賣捌の模樣は未だ見込み立たず卸値段は小瓶二圓三十錢大瓶四圓六十錢にて前年と變りなし

下關相場

▲朝鮮白米は不引立　已記の如き事情の下に兎角買氣進まずして昨今賣れ行きの至極鈍なる爲め市況引立たず然れども其後の出廻り至極僅少なるのみならず內地米も一寸下げ止りの情態にある折柄各米主の安くは手放し兼たる風情ゆへ格別人氣狂はずこれが小口の出來値は左の通りにて其後の輸入は七十叺のみ

▲大豆は格別弛まず　本品は頃日來兎角賣れ行き捗々しからぬのみならず目下倉庫缺乏の折柄とて之れが倉入れの不可能なる爲め自然人氣引立たず然れども其後の出廻り多からぬと産地も別に大したる引弛みなき際へ各抒各手持筋の賣り急がざるに依り格別市況弛まず之れが昨今の出來値は左の通りにて其後の輸入は沃川物二百叺提燈物二百五十叺等なり

▲小豆は矢張小口のみ　本品は矢張り當用小口への賣れ行きに過ぎずして市況引立べくもあらず然れども已記の如き事情の下に其割賣り急ぎ物の現はれざるため格別市況狂はず

△朝鮮一等白米（當用）	十四圓十錢
△同	十四圓二十錢
△同二等白米（當用）	十三圓七十錢
△永洞大豆	九圓七十五錢
△平澤大豆	九圓七十錢
△元山大豆	九圓九十錢
△慶山大豆	九圓五十五錢
△同	九圓六十錢

京城正米

期米は更に大阪安を入れ仁川市場又不勢の成行きとなるも正米市場は一時に比し稍落漸らきたる爲め出來難れつゝあるも一般の賣進まず……の氣配は先づ前日來同樣の處にて小口の取引行はれ居れり

南大門の廻米

鳥山白米	二七〇叺	水原白米	三〇叺
大邱白米	一〇叺	平澤小豆	六四叺
錦原	二四〇叺	汶山白米	一九叺
鳥致院	一五七叺	平澤白米	一四叺
金村	二八叺	金村籾	三六叺
大邱白米	三六叺	金村白米	四一叺
芙江白米	三三叺	成歡白米	一一叺
鳥致院			

吉　行賣仲買店

仁川海岸町三丁目　電話長九二番　三〇九番　振替京城三四五番

仁川現物市場

△穀入津千二百俵　氣配期米安に連れ安人氣

△正米入津約千叺　氣配期米の瓦落にて多少安人氣なるも午前中商談行はれず

△大豆入津少なし　氣配疑らざる唱へ

仁川期米

▲二十七日前場　前寄十四圓五十六錢と昨引より六錢安の入電に一節更に四十六錢と安移り中限九十七錢引先十一錢

市場零聞

▲二十七日前場　中限㊁九圓九十錢　八十九錢八十錢　平均値段八十五錢　八十四錢八十錢　出來高二百五十石　△先限㊀十一錢　十錢メ九錢　十錢メ九錢十錢メ九錢

……

▲前場の大激戰　千八百石賣　六千六百石賣……

▲前場は不勢　大阪の下落報に安を受けて十一錢〇九錢と寄付きて……

唱ひ三錢と瓦落　四十錢に期したるに大阪跡尚安に……

▲今筋猛烈賣　旅行中なりし今筋は昨夜歸仁し其筋の……

一萬石の大賣物

▲㊦筋續て買ふ　㊦筋は今前場の崩れの中に好く猛烈的買物を發し今賣に對抗したり

▲前場大激戰　大阪の變動に立ち遲れたるも今の歸仁に今前場は大に活ち今の大賣物に買向ひたるも一面大賣……

買向ひ　投げも新規　追駈けあり一面利喰に

押目狹　…に頗ぶる大混戰を演じたり

▲期米前途觀　…は新年の變動……

大阪跡四十一錢　大混戰裡に一と崩れ

頭重き成行を示して相場は理想に逆行し六十一錢の瓦落を演出し春高理想買は頭失敗に歸し……氣焰も熱心强氣筋の

舊節季前に至り入津存外少なく底意何となく强硬を持續

▲不可能の狀態を移出　當然來るべき成行なるも……

延ては稲作の凶作を懸念し本年の麥作

拘泥し能はざる鮮內地の事情に

接し最早轉換時期に近く

買收額の數字如何に

差は百二十萬石

途に大影響を及ぼす前に……

▲マバラの崩れ

▲船株伸力鈍る

北濱だより

賣買取組高

一月限	一二三	二百石	一三安
二月限	一二三	四千石	一七安
三月限	一二一九	四萬七千石	一六安
出來			
廿六日後場	値	比較	前日と比較

前場

寄付	十一圓九十	
止高	十一圓四	
安値	十一圓九十	
出來高	一萬五千三百石	

平均値段

一節	十一圓七錢
二節	十一圓九錢
三節	十一圓六錢
四節	十一圓六錢
五節	十一圓四錢

仁川米豆取引所

二十七日の三月限

●特價發賣申込の好時●

銃獵之趣味

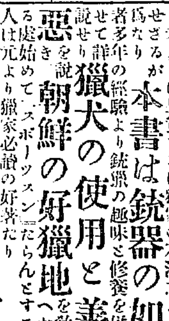
青坡吉村君潔著

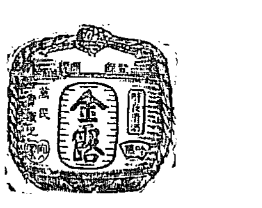
見！銃獵の手引——多獵を希望せん人——朝鮮の獵地を知らんとする人——

銃獵の壯快なる事は何人も知る處ならんも徒らに心醉して遂に身命を損ふ者多きは畢竟するに獵家の不注意より來る處なり過は其の銃器を悉知せざるが爲なり　本書は銃器の如何なるかを說き且つ著者多年の經驗より銃獵の趣味と修養を併せて詳說せり　獵犬の使用と善惡を說き朝鮮の好獵地をへたる處始めて「スポーツマン」たらんとする人は元より獵家必讀の好著たり

定價四十錢　特價金三十錢（郵稅共）

發行所　京城大平町二丁目　京城日報社　振替京城三〇〇番





攝津灘　大塚釀造所吟製　發賣元　京城本町二丁目　前田酒店　電話一三七番　振替口座四二五

恩給　立替　貸金　元祖　博多屋本店　黃金町通櫻井町入軒西四ツ角　電話二一三一番

資本金五百萬圓　頭取安田善三郎　★株式會社百三十銀行京城支店　京城本町壹丁目　電話長五八番　一九四番　振替貯金京城一三番　銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候　爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

くすりは山岸　諸官衙御用達　洋藥賣藥卸問屋　醫療及試驗器械　總切叮嚀迅速確實に市內配達及び地方通信販賣致居候　京城本町丁目郵便局前　山岸天佑堂　藥品部　器械部　電話二二〇七　二六〇二　振替貯金京城二〇三

小兒科專門　內科　京城旭町三丁目（元十全病院跡）　若槻醫院　ドクトル メヂチーネ　若槻寬隆　電話二四六二番

滿蒙處分論

露國クロパトキン將軍原著　日本大井包高譯　定價金一圓　郵稅本社負擔　京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

▲正誤　昨一月二十七日發行京城日報朝刊第三面朝鮮總督府中樞院顧問子爵高永喜逝去廣告中「朝鮮總督府中樞院顧問從三位勳一等子爵高永喜」ヲ「朝鮮總督府中樞院顧問從三位勳一等子爵高永喜」ニ「長男義敬」ヲ「三男義正」ニ「長男義敬」ヲ「子爵李容稙」ニ付訂正ス

朝鮮總督府中樞院顧問從三位勳一等子爵高永喜儀永々病氣之處本月二十五日午後十一時半薨去致候に付此段謹告仕候

追而葬儀は二月一日午前九時自宅出棺同日午前十一時西大門外獨立門前に於て葬式相營み同二日午前十一時下棺同二日午後四時三十分西大門外獨立門前にて返虔致候

大正五年一月二十六日

長男　高羲敬
三男　高羲正
兄　高永周
伯爵　李完用
子爵　朴齊純
子爵　趙重應
子爵　李容稙
子爵　閔丙奭
　　　石塚英藏
　　　荒井賢太郎
　　　國分三亥
　　　國分象太郎
　　　小松綠

本社は支店出張所等無之に付御用命の節は直接御用命願上候　旭町二丁目（名古屋城下）株式會社京城葬儀社　靈柩馬車の設備有之候　中河原重吉　井上芳太郎　電話一五六七番　電話九五七番

葬具一式　造花、生花、花環、寄贈品、裝飾品、其他供物一切親切丁寧は本社の主旨に候間御用命奉希上候　京城永樂町二丁目　大葬社　電話一〇五六番

越後大評定

第百十三席 早川貞水口演

大六の家督相續

九『唯恐みまするのは此留間、正木の兩名、歌道御指南、茶道御指南とて申し上げ、御主君の御傍に晝夜御付き參らせながら、惡しき事のみ御勸め申し上ぐるに依り、それを見て取りたる此九十郎、晝夜の別ちなく、舍弟と共に守護し奉りたるが、今初めて悟つた男山八幡の御代參、是みな吾等を遠ざけるの計略で御坐いました、ア、殘念至極に存じまする、光『コリヤ九十郎、予も九三郎、左門の菩提を弔ふに依り、其身も舍弟等兩名の亡き後は、懇ろに弔ひくれう 九『仕り度、この儀如何に御坐いませう 光『今更らながら彼等兩名の不忠を知りたり、宜きに計らひくれよ』と光山樣御手づから此留間、正木の兩名は不忠極まる者なれば、汝に申し付けるに依り、出合ひ次第手に掛け候ふやうにとの御書面を下されました、九十郎之れを推し戴き 九『然らば又た機會を見て御伺ひ奉ります、必ず共に御身を大切に、アイヤ鶴田殿、御主君は以前と變らせ給ふ御身の上、宜ろしく御賴み申す 鶴『ハア畏りまして御坐る 九『光『最早渡邊、其方は立歸るか 九『御名殘惜しくは御坐いまするが御暇

よ 九『ハア有り難き御詞、その御一言を承はる上からは、舍弟等兩名は地下に滿足往生を遂げることで御坐いませう、又私とて御主君の御姿を見奉りては、唯もう何事も涙の種子此上からは、忠臣關根彌二郎の後任と課り、惡人輩を亡ぼすの所存、その節には又貴下樣の御身の上に、花咲くことも御坐いませうに依り、必ず御心得違ひなく、暫くの間は、此御下屋敷に御謹愼下され度、この儀は九十郎、乾度申し置きます 光『宜きに取計らひくれよ 九『それに付きましても、惡むべきは此留間、正木の兩名、彼等は正に惡人方に萬事の内通いたし居るものと心得まする、若殿の御ため、又一つには舍弟等兩名の怨みを晴すため、彼等を我手にかけて討取りますれば、何卒御主君より彼等兩名を討てとの御書を頂戴を 光『再會の時節を樂み待つぞや、九『ハア恐れ入りまする』と涙を拂つて渡邊九十郎、茲に御別れをする此方は小栗美作、愈々計略成就して思ひ込んだる三河守綱國殿を押籠め參らせたるに依り、此上は伜大六を以て、越後家の御相續を願はんと又々大殿越後守殿へ此儀を申し上げると、最早御血脈、順當の事なれば何人も何とも異議を挾む者がない、大殿も無論大六の他に相續人のないことは御認めで御坐いますから、愈々大六を以て越後家家督の手續に及び、大六は忽ちにして二十四萬石の城主、松平掃部と名乘るまでになりました、すると其翌年延寶五年正月元旦、大殿御國表高田の城へ入らせられたるに依り、今日は更めて御親子御對面と云ふので、松平掃部殿は金紋先箱二本道具美々しき御行列にて初御登城、どうも家中の評判大變で御坐います、併し御家の利益を思ふ、所謂御ための方と云ふ方々は孰れも眉を顰め『ア、情なきことになつた、小栗美作の伜大六が二十四萬石の城主、是非なき事とは云へ、御家の行末案じられる』と心ある者は心中憂ひを抱くと雖も、面に發することも能はず、只々殘念に心得て居りましたが忠臣茲に現はれて、新若殿の初登城に大騷動を惹起すに至りました。

お聞きなさい

▲二度なり蜜柑● 鹿兒島縣肝屬郡小根占には十一月と三四月の二度成熟する蜜柑がある土地の人は之を二度なり蜜柑と稱して居る今度此二度なり蜜柑を宮內省へ獻上する事とした果皮薄く甘味多く香りを有し品質優良天下一品の味であるとか

▲筑前の香椎宮● 知る人ぞ知る昔仲哀天皇が熊襲を征伐されて筑紫に行在所を置かれた時椎茸を獻じたものがあつた天皇深く之を嘉賞されて香しき椎茸と宣うた香椎宮の稱は之から起つたのであると

▲山中に立籠る中學生● 佐賀中學校三四年生約二百名は十九日同盟休校を企て校庭にて教師を毆打し市內から三里も隔てた佐賀郡川上の山中に立籠り學校や父兄と對峙して居ると

は輕擧な少年共●

▲離船は怨靈の所爲か● 去月十九日須磨沖の藻屑と消えた土井愛子と言ふ才媛がある愛子は嫁いた先の姑に責め拔かれてとう〱身投をしたのであるが愛子の婚嫁先の川上家の船が今月の十九日に丁度愛子の投身した場所で離船をした正に愛子の怨靈の仕業に相違ないと附近の大評判になつて居る

◉高千穗學校生徒募集 東京市外大久保町同校にては幼稚部小學部中學部及び高等商業部入學志願者募集中申込期限は高商部の四月十三日の外は三月三十一日尙同校塾舍又は自宅より通學する者に限り入學を許可せらるゝ由

一月廿九日九星
舊十二月廿五日乙丑
本命八白 艮 建 赤口

▲八白● 歩調のあわぬ事有日新事見合 東方は吉 暗劍艮 ▲九紫● 向善の日 轉居入學金件名弘操 縣出 縁婚置貿易藥等萬吉 ▲一白● 空勝輪の事有日新事手控 萬事は吉一切のせわ事を禁ず ▲二黑● 力を發して反て損となる事有注意 新事手控 [illegible]

演藝案內

櫻井町 大正館 電話八七三番

廿六日より大寫眞提供 ○實寫テニカの景況 ○滑稽人形の警察 ○悲劇 禿頭の網 △デンマーク、ノルヂスク會社最近傑作 ○軍事大探偵大活劇『黑裝束』全三卷 △敵國の機密を探らんと…[illegible] ○新派家庭劇『まごころ』全三卷 廿八場 …[illegible] ○喜劇三樂寮の[illegible]

本町 壽座 電話五七八番

廿八、九日替狂言 假名手本忠臣藏裏表大序より討入迄 百姓彌作、清水一角（鯉三郎）娘おかる、妻…[illegible] 九郎（雷三郎）石堂馬之丞、母おかや 寺岡平右衛門（梅藏）加古川本藏、斧定九太夫、堀部彌兵衛（光十郎）桃ノ井若狹之助、小林平八郎、茅野和助（雛太郎）高ノ師直、大星由良之助（長太郎） 特等七十錢一等五十錢二等三十錢三等十錢

黃金町四丁目 黃金館 電話二六三七

一月廿六日より提供の三大寫眞 ○日本寫眞紙切り細工實況 ○泰西探偵大活劇 ○維新史傳 ○新派悲劇 [illegible]

新龍山 佐久良座

新派自然劇團三輪寶一行 一月二十八日藝題 菊池幽芳氏作 大悲劇 大學校長栗山博士（三輪寶）矢田周市 社長織田（乾三吉）藝妓美代吉（生駒） 綾之助（播磨陽一郎）北浦乙哉（西村） 矢之助（ 健（女髮結お時（美咲正雄）北浦妹絹子（都島美夫）藝妓小みよ（福田榮） 川正行（香月晃）

明治町 浪花館 電話二六〇番

東京落語三遊派幹部一行 御祝儀寶之入船（三遊亭當三）二人旅 播州巡り（同三勝）伊勢參宮 桂圓之助）たらちめ（三遊亭遊三郎）道具屋 （柳亭春樂）動物音聲（三遊亭遊玉）間 席紙彫刻（鶯宿亭梅陽）源平穴探（三 遊亭圓昇）時世笑話滑稽琵琶（瓊浦庵 三尺坊）小言幸兵衛歌舞（三遊亭遊 三）大切座員總出即席笑話 三遊亭遊三一行の變裝競爭、大切餘興として 十二日より始めたる場內變裝競爭は非常の好人 氣にて發見者にはそれ〲景品を呈しつゝあり

本町 御成座 電話一九一

二十三日目藝題 人の妻 喜劇越後獅子 第一幕 第四幕 …[illegible]

壽町 壽館 電一〇五〇

廣江黨愛煙家の福音 …[illegible] 武士道（文右衛門）義烈百傑（燕若） 神崎與五郎東下り（香右衛門）春日若 ふ（むら雲）義士傳（北村入道）女武士 道（二席）山本松子）伊達振子、巖窟王 （長講二席）燕左衛門

美髮用クラブキニーネとクラブ美髮用ポマードは

男子の髮にも 女子の髮にも

日本名物

髮を黑く素直にし……

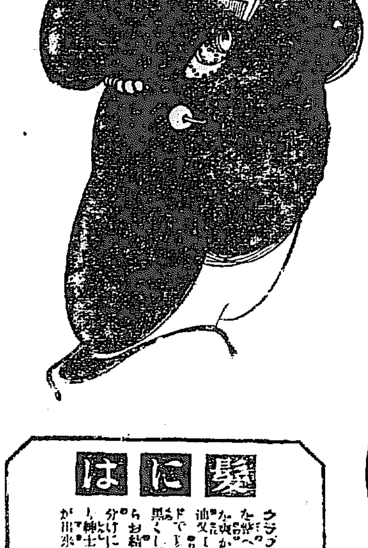
クラブ香油は

不思議に髮の艶を增す

特長

原料ヒ

日本名物クラブ香油は極上の椿油、山茶花油、扁桃油、橄欖油等を主要な原料とし更に髮の營養になる藥劑と貴重な香料とを加へて醸製した天下一品の香油で髮の光澤を增し發育を助け切毛拔毛を防ぎフケを除るに卓効あるのみならず何とも云へぬ床しい薰りは最も貴婦人紳士の御嗜好に適し近來各地共非常な賣行きであります



男子の御髮にも女子の御髮にも有効

髮には

クラブキニーネで髮を洗へばフケを取り髮が軟かにしクラブ香油又はクラブポマードで丁寧に髮を柔軟に黑くし艶を出して、おから、お結ひになり又お分けになければ御婦人、紳士も自信に御理髮が出來ます

撞球界の泰斗 王乃一熊著

撞球指南

菊版上製三百餘頁 總クロース美裝函入

定價壹圓五拾錢 郵稅金十二錢

玉突の理論と實際を解說せる初學者の入門熟達者の虎の卷

「東京朝日」評 我が撞球界に於ける科學的知識と技術の卓拔並ぶもののなき點に於て斯界の權威として推さる、著者の最も統一せる述作なり本邦撞球者の爲に他に類例なき好指導として推薦すべき者なり

取次所 京城大平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

登錄商標 トヨシ

高尙優美なる新裝御大典記念發賣

製造發賣元 群山府全州通三丁目 石見屋商會 電話二二一番 振替京城五五三番

各地有名菓子店食料雜貨店鐵道各驛賣店及列車內等にて販賣致候

內科 小兒科 入院隨意 京城日出小學校前 多々見醫院 院主 醫學得業士 多々見五郎 電話九四〇番

比較は最良の撰擇法なり？

サクラ正宗 サクラ正宗

京城明治町一丁目 山邑京城支店 電話八四九番 振替京城五七番

汽車 京釜 南行 北行 …[illegible]

京城日報　第三版
二十八日朝刊（第三千十三號）
(明治三十九年八月二十日第三種郵便物認可)
本紙定價　發行所　合資會社京城日報社　太平通一丁目

總督の諭告と吾人の覺悟

三、貿易の激進（續）

更に輸移入貿易の狀況を見るに、併合後に於ては政府が各方面に對する諸般の施設、並に民間投資の反影と認む可き各種企業の勃興に伴ひ、之が材料の輸移入を增加すると共に一方、時世の進運に伴ふ鮮人生活程度の向上、產業の發展に基く購買力の增進、內地人の移住等に依りて比年著しき增加を示せること敢て輸移出貿易に讓らず、併合前年に於ける輸移入總額三千六百六十五萬五千圓なりしもの、大正二年に於ては七千百六十六萬九千圓を算し、殆んど倍加の趨勢を呈したりしが、大正三年以降其傾向を一變して遽かに減少を來し、同年中には輸移出總額六千三百二十九萬六千圓となりて前年に比し八百三十七萬三千圓を減じ大正四年には更に六千萬四千圓となりて百十六萬五千圓の逓減を見たり

此現象は米價の暴落に伴ふ一般財界の不況、殊に歐洲動亂の勃發は、啻に外國產品の輸入を澁滯せしめたる而已ならず、物資の價格を上騰せしめし結果にして、素より一時的現象に過ぎざれば之を以て直ちに貿易の趨勢を卜する能はざること勿論なるも、一面に於ては產業上に關する當局の施設が、自作自給の機運と相俟ちて漸次輸移入品防遏の績を舉げ其權衡を順調ならしめむとする貿易上の一新風潮と目するを得可く、斯の如きは朝鮮經濟界の健實なる發展の曙光として輸移出品の激增と共に吾人の慶賀に堪へざる所なり

然れども出入の權衡は未だ完全なる回復を見るに至らず、之を大正四年の貿易に徵するに同年は總貿易價格に於て一億二千百二十六萬四千圓を越えたるのみならず、一百二十四萬三千餘圓の輸移出超過を算するに至りて、朝鮮貿易史上質に一新記錄を作りたりと雖も、前章に略述せるが如く之より金地金及び金銀貨の出入を控除せば九百七十萬圓の輸移入超過に了り、商品價格に於ては依然として在來の趨勢を脫する能はず殊に同年中の輸移入品を大正三年の輸移入品と對照するに、食料及び產業用品に於ては多大の減少を示せりと雖も、衣料並に日用消費品等に在りては却つて增加を呈せるもの尠からず、之れ總督が有無相通じ彼此互に益するは國際貿易の原則なりと雖も、國內に於て生產し、又は製造し得可き物品をも海外に仰ぎ、爲に出入の均衡を失するが如きは健全なる經濟の發展を企圖する所以にあらず。と諭戒せる所以にして、吾人は更に奮勉努力、產を殖し業を興し、進んで貿易上出入の權衡を回復し以て朝鮮經濟界の健全なる發達を促進するに遺憾なきを期せざる可からず

支那の形勢

在東京　一記者

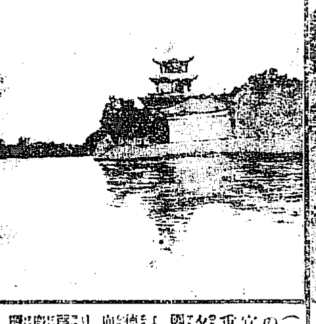
▲支那雲南省獨立を宣言し、隣近各省亦た相應じて動かむとす、是れ支那に取りては重大事件なり、北京政府は其の事體の容易ならざるを見て遂に其帝政宣布を延期するを發表し、之を關係列國政府に通告したり

▲北京政府の出處は、今尚ほ明白ならざるものなきにあらずと雖も、其表示する所を以てすれば、則ち先づ雲南獨立軍を討伐し、其事平らぐの後を以て、皇帝即位式を舉ぐるといふ方針なり、現在の北京政府の力を以て、天涯隔離交通不便を極むるの雲南を征服することは固より至難の業なるのみならず、雲南以外に獨立を唱へ、排袁運動を爲すもの寡からず、特に最近に至るまで、袁大總統の腹心なり手足なりと看做されたるものすら、今は背き去りて帝政反對を唱ふるといふ有樣なれば、一たびは全國民代表者一致して、皇帝に推したる袁大總統の資望も、今は殆ど消滅し去らむとす、是れ其の地歩の甚だ艱難なる所以なり。

▲其れ去年八九月の交、袁大總統の勢力隆々國內之に抗するものなきを見るや、北京政府は此に政體變更の志を定めて、徐ろに其事に從ふ、一人の異議を立つるものなく、各省政體を變更して袁大總統を皇帝に推すべしと稱す、然るに僅かに數旬ならずして形勢一轉、復た速かに帝政を宣布すべきことを云ふものなく、却て各省獨立共和擁護を唱ふるもの、旦暮に其多を加ふるといふにあらずや、前の形勢僞なりや、後の狀態眞なりや、將た前者後者共に假擬にして、只一時の形貌を添ふるに過ぎざるか、是れ支那の形勢を觀るもの丶共に其心を苦むる所なり。

▲併しながら支那は自ら支那なり、他國の例を以て之を推すときは、百千疑惑頭極なかるべしと雖も、支那の特種の事情を知るときは、其形勢の由て來るところ、其狀態の從て動くところ一ヶ諸を掌に指すがごときものあり、支那は革命以來共和政體なりと云ふと雖も、未だ國民意思なるもの形成せられず、一般人民の公議輿論なるもの亦これ無し、只權柄を有するものありて、號令を發すれば則ち皆阿附雷同す、昨は東嚮今は西趨、固より自ら辨ずる所にあらざるなり其政體變更袁氏推戴の議一たび定るの後、忽ちにして各省獨立共和擁護の言國內を風靡するもの、亦自然の數なり、併しながら今日の北京政府、其金力、兵力に於て觀るところありと云ふも、所在排袁運動者流なるもの、亦其勢力、甚だ微弱にして能く自ら久しきを支ふべきや否や覺束なし、支那人は權柄を有するものに從つて動くと云ふも、權柄は金力兵力を以て其基礎と爲す、以上其基は各省獨立共和擁護者にして、其基礎北京政府よりも脆弱ならしめば、今日の狀態は又々一變せざる可らずして、支那の形勢は今尚ほ不確定なりと云の外なし、我帝國政府が依然監視的態度を取り、關係列國皆暫く其推移する所を見て徐ろに之に對するの方策を定めむとするものなるべし

革命軍の運命を支配する重慶



（右）有名なる重慶の建物望江樓（左）宜昌より溯江して重慶へ向ふ北軍
夕刊所報の如く三個師團の北軍の一部は宜昌より一部は岳州より常德を經て何れも重慶に向ひて陣を進めつゝあり而して一方雲南軍は一統領を將として重慶に迫らんとし今や重慶は腹背敵を受けんとす此地は四川の咽喉にして支那の運命を支配す

支那の鐵道（三）

計畫諸線

尚一九一三年に決定を見たる一大計畫線は廣東省雷州半島の西廉州府に近き欽州より南寧及び興義府を經て雲南府に至り、夫れより成都を經て重慶に至る約一千哩の線路計畫なり此線路は欽渝線と稱し佛國人の力を以て敷設せらるべきものにして、支那興業銀行は一億五千萬法の借款に調印し先づ三百萬磅を募集せり。未だ工事の著手に至らず。一九一四年の初に中英公司は南京と長沙とを連絡し支那の最も豐沃なる地方を通過する重要線路の權利を獲得したり、寧湘線之なり。此頃に於ける日本の活動亦頗る見るべきものあり。即ち滿洲に於ける鐵道網を完成する爲めに得たる利權少からざりき。又京張鐵道は一九一三年に北京より約二百一哩の陽高驛まで延長し資金調達次第第二期線の工事を始むる筈なり。以上諸線の外純然たる支那人の事業として敷設されたる小鐵道若干あり其の二三は外國技師の助力を借れるも他は悉く支那人の資本により支那人技師の力にて敷設されしものにして何れも相當の成績を以て營業に居れり。此種小鐵道中にて最も重要なるものを南京市街鐵道となす此は南京市の外側にて滬寧鐵道と連絡し延長七哩敷設費四十九萬兩を要せり。又齊々哈爾輕便鐵道は一九〇七年に起工せられ昂々溪に於て東清鐵道と連絡し全長約十七哩敷設費二十五萬兩を要せり洛潼鐵道即ち洛陽河南府間鐵道は開封河南鐵道を西方に延長したるものにして線は河南府より約四十哩の距離に亙りて築造せるも其以外何等工事を施さず。江西鐵道は九江と南昌とを連絡する豫定なれども、今日は九江より約三十五哩の間を運轉せるに過ぎず。安徽鐵道は蕪湖と廣德州とを連絡する豫定にして一九〇六年に起工され資本金約九十萬兩は支那人の供給に係るも未だ開通の運に至らず其他種々の計畫線あれども煩はしければ之を省く。

雲南省の地勢

目下南方革命軍の根據地たる雲南省は南支那第一の大省にして彊域廣大物產豐富なる天府なるに加へて西北は高山重疊し西方は深水繚繞して守るに易く攻むるに難き天險の地なれば若し萬一某國が之れが後援を爲す等の事あるに於ては假令袁氏が精兵二十萬を長江に排置するとも之を攻略するなどは思ひも寄らざる處なれば袁政府の心痛は一方ならざるが如し今雲南の地勢に就き其大要を述べんに

▽**雲南省** は前清時代には糧儲道、迤東道、迤西道、迤南道、臨安開廣道の五道に分ちたるも民國に至りて四道に改めたり其第一は滇中道にて昆明縣等の四十縣を管轄し道署を省城に置けり第二は騰越道にて騰衝等二十九縣を管轄し道署を大理縣に置けり第三は普洱道にて思茅等十縣を管轄して道署を普洱縣に置けり第四は蒙自道にて建水蒙自等十七縣を管轄し道署を蒙自に置けり

▽**交通路** には舊來四道ありて東は貴州の普安に達し東南は廣西の百色に達し西は緬甸の八莫に達し西南は緬甸の景東に達す而して鐵道は英佛人の手に成れる者に滇越線あり英の要求せる者に緬甸より省城に至る滇緬線あり又支那の自設せんとする豫定線には雲南貴州線、雲南成都線、廣西蒙自線等あり中部地方は古の滇國の領域にして舊時は之れを雲南、曲靖、武定等の各府州に分ち兩漢六朝時代は皆茲に建都したり

▽**東南部** は舊時臨安、開化、廣南、廣西等各府州の在りし處にして內は廣西省に通じ外は遙に安南の要港に通じ境內山岳險峻にして道路最も險要なり

▽**南部** は舊時普洱、元江、鎭沅、景東各府廳の在りし處にして眞に瘴癘の區險阻の地たり思茅廳には稅關開設せらる

▽**西部** は舊時大理、楚雄、蒙化の各府廳を設けらる金沙瀾滄の險要ありて雲南省の西方第一の要地なるを以て前清時代には提督を大理府に置けり大理府は安南及び西藏に對する居中策要地として軍事上最も重要の位置を占む

▽**西南部** は舊時永昌、順甯、鎭邊の各府廳を置かれ地勢英領緬甸と相接し八關九隘の要處ありて英人との境界交通上の問題に對し太だ重要の關係あり

▽**西北部** は舊時麗江、永北等の各府廳を置かる四川及び西藏と相接し境內に各種土司を居らしめてる者甚だ多し麗西は西藏に入るの要路にして兵茲に駐在せり

▽**東北部** は舊時東川昭通の各府廳を置かる貴州及び四川に界して境內多く高山險地のみなるも唯昭通は地稍や平坦にして交通の便ありと

京日詩壇

○內長新年　高橋　空齋
情同父子君臣、四海八荒斯道眞。且喜梅花先獻笑、今朝大正五年春。
評曰　典純峭潔

○歲晚東豐增代議士　同人
獨對殘燈一穗靑、虛窓端坐讀騷經。光照夜雨天燭劍、氣懾人北斗星。懷柔如虎江湖報、效似浮萍知君努。力期來歲飛龍名字馨。
評曰　玉光劍氣、此詩亦乃是、

○寒夜不寐口占　小永井槐陰
奈此迢迢長夜何、殘鐙候火獨吟哦、樵鼓重月途洲破、隱風呻寒吏多試、媛芳膠當甕菜起迫飢鼠似飛梭、蕭然自笑身常健、凍臥猶安可一呵。
評曰　隨手揮灑乃爾自在、雅見老鍊

○同上　木田　芳洲
櫓聲爐邊鐙可挑、思詩不寐影蕭蕭。鐘如遠淺深韻、月氣半宵霜半宵。
評曰　正是神悟之境、詩禪一致

日報歌壇

□ソーウル短歌會詠草

南山を今離れ行く大月の光の波に心ときめく　方義

今朝もまた勸定め時間をぎりぎりにめしもたうべず來て何もせず　北星

煌々と日の照る野みち人のゐてからだことごと光りたりけり

まひるのに日こそふりたれうれしも河原の小石みな光りたれ　湖畔詩人

生きてあるその一事の事實より働くよ吾働くよ吾

わが頭空虛となりしかあやうくも具書間街に倒れんとしぬ

▲後場の大商戰

（右端の欄は切れて大部分判讀し難し）

▲本日の現物界

二十一日の三月限

理學博士　丘淺次郎先生新著　定價金參圓五拾錢　送料鮮滿臺金川拾五錢

生物學講話

▼生物學は人生の謎を解く秘鑰なり▲

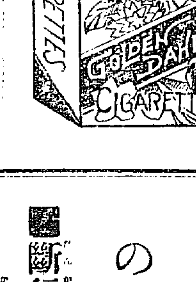
人間の生涯は要するに食うて生んで死ぬのである。廣く生物界を見渡すと食ひ方生み方死に方にも實に限りない變化があつて人間の食ひ方生み方死に方は僅にその中の一種に過ぎぬ。されば生物界の事實を知つてから人生を觀たのと知らずして觀たのとでは考へ方が大に違ふ。生物學によつてこれらの事實が明になつてから人生のあらゆる問題に適當明白な解決が與へられるが生物學によらぬ考へ方は因襲に囚はれ活力がない。故に生物學は實際生活上第一に知らねばならぬ。之を知らぬものは煩悶迷妄の生涯を送る不幸な人といはねばならぬ

三色版外挿圖四百　鮮國裝美洋裝函入

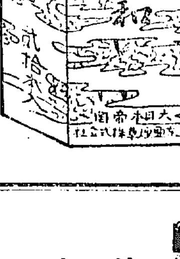
發行所　東京小石川小日向水道町　振替口座東京第五參貳貳　開成館
一取次所　全國主要書店

特價大販賣

一包金七錢



一包金十錢



一包金七錢

愛煙家の大福音

三煙草の大値下げ

■弊社は愛煙家各位の御愛顧に酬ゆる爲め
■嗜好に富み聲價高き上記三煙の値下を
■斷行し誠意を以て各位に推奬致します
■益々御愛煙の程を願上ます

東亞煙草株式會社

朝鮮總販賣所

第三十七回帝國議會

衆議院(二十七日)

衆議院は二十七日午後一時十五分開會諸般の報告を終るや

▽伊東知也氏(國民)は議事の進行に就き發言を求め前日の議會に於て本員が質問演說中定數を缺き延會となれり院規百〇五條の規定に據れば當然本日の日程に上すべきものなるに之無きは如何なる理由なりやと迫り之に對し

▽島田議長は百〇五條の規定は延會又は議事中止の時に於て前の發言を繼續する事を得る規定なりして質問は火曜日なるを以て火曜日の日程に上すべしと答へ伊東氏と議長との間に百〇五條の解釋に就き押問答あり伊東氏は法學通論を讀み終らば斯くの如き解釋は容易なるべしと揶揄したるに議長は法學通論を讀み居らるゝ諸君は伊東君の如き解釋をなさゞるべしと鸚鵡返しに遣り返し直ちに日程に入り會計檢査院法中改正法律案行政裁判所法中改正法律案を一括して日程に上し委員長横山金太郎氏(中正)は委員會の經過並に結果を報告し原案可決

電氣事業法中改正法律案委員長戸叶薫雄氏(公友)は委員會の經過並に結果を報告し白石直治氏(政友)修正意見を述たるに對し山宮藤吉氏(同志)は修正意見を駁し次で

△高木益太郎氏(國民)東京市の電燈料は區々なるが當局は如何なる監督をなしつゝありやと質し

△箕浦遞相は目下當局者間に協定中なりと答へたるに高木氏は余は政府の監督如何を質せり當業者の協定は余の問ふ處に非ずと詰り遞相は取締の順序として當局者の協定を適法と認む監督官廳の干涉は却って弊害ありと答へ採決の結果修正案少數にて原案可決次に

貨幣法案中改正法律案委員長頴母木桂吉氏(公友)の報告ありて原案可決

大正三年度豫備金支出の件同特別會計豫備金支出の件同臨時事件豫備費支出の件同帝國鐵道積立金支出の件

右四案を一括し加藤參政官必要止むを得ざる支出なる旨を述べ委員附託

華族堂典錄處分に關する法律案沒錄處分を受けたる者に對する華族堂典錄處分に關する法律案

右宅木彌次郎氏(同志)の說明ありて委員附託

衆議院議員選擧法中改正法律案小泉又次郎氏(同志)提案理由を說明し委員附託に決し午後二時三十五分散會せり(東京特電)

議會別電

貴族院豫算分科會 朝鮮特別會計

二十七日午前貴族院第六分科會に於て前日に引續き朝鮮特別會計の質問を開き、藤田四郎氏は鐵道作業費減少の理由、鐵道公債と收益との關係及び內地鐵道との收益の比較に就き質問を試み、淺田主査氏は鐵道の現行及び收支狀況、東拓に對する總督府の監督權限、南鮮北鮮に對する總督府の拓殖方針を質し小松謙次郎氏は朝鮮會計の負擔する公債の總額たる資本の總額、貸付金の支途並より東拓會社業務の實況社債を合し朝鮮銀行の將來に就き質問し、安場男爵は鐵道未成線及び其の哩數より轉じて東拓の利廻、移民府縣別成績及び彼等の感情、東郷男爵は連絡運輸實施後の成績、主要貨物及び外國貨物の影響に關し質問する所あり、荒井、兒玉兩政府委員其れ〳〵詳細なる答辯を爲せり、午後も引續き質問の筈(二十七日午後四時其筋着電)

戸山學校行幸

天皇陛下には二十七日午前七時三十分御出門陸軍戸山學校に行幸あらせられ學生の障礙物競走軍刀術銃劍術等を天覽あらせられそれより修業式場に臨御若宮侍從武官をして左記の優等學生に恩賜の賞品を傳達せしめられたり(東京特電)

小野藤次郎 川野喜造 江口藤太郎

拳銃一挺(各通)

渡邊三次 中村省三郎

銀時計一個(各通)

歲出質問

二十七日午後貴族院豫算第六分科會に於て總督府歲出に關し午前に引續き質問を爲し、小松謙次郎氏は土地調査費將來の年割額、航路補助費增額の理由、衛生補助、地方產業補助の種目より棉作獎勵費と棉作補助費との關係、地方金融組合と他の金融機關との關係及び各補助費に就き廢止又は減額の理由、總督府廳舍新營の必要、道路修築費と治道計畫との關係、海關工事費の內容及び港灣設備費との關係、本豫算にて建設すべき鐵道線路、土地調查と地租名寄帳整理との關係、平壤鑛業所炭坑費と採炭費との關係並に其の採炭費を臨時事件費等に編入せざりし理由に就き質問を爲し、淺田德則氏は灌漑設備改良補助の內容、羅災救助基金補助費削除の理由を、安場男爵は朝鮮に於ける棉の種類、品質、收穫及び在來種と陸地棉との比較、驛屯賭の名稱の意義及び調査費と整理費との關係を質し、河村讓三郎氏は免囚補助及び感化事業を、藤堂男爵は鴨綠江對岸安東沿線方面に於ける鮮人發展の狀況及び此の方面に於ける戰時に對する政府の所見に關し質問ありしが、荒井政府委員之れに對し答辯を爲せり、之にて總督府に關する大體の質問を終り午後四時散會せり(二十七日午後七時半京城着電)

支那の財政難

雲南軍討伐費の各省分擔

[illegible]此程奉天省にも通知し來れり各省の分擔左の如し(北京)

中央政府は一千萬元

[illegible]二十萬元[illegible]

還元問題と玉碎決心

貴族院の空氣益險惡

軍器問題に對する一時の低氣壓は漸く去りたりとするも減債基金問題に對する貴族院の空氣は益々險惡に向ひつゝあるが如く之に就き政府並に與黨側にては頗る重大視し同志會幹部が急に減債基金問題に對する態度を聲明するに至りたるは畢竟此の前途を見越し政府も與黨も漸く決心を固めたる結果なるべく即ち若し還元問題に於ける衝突よりの瓦解ならば大隈內閣並に同志會として再起の餘地を殘せる玉碎なりと決心したるにあるが如く殊に最近平田子が軍器問題に就ては極力貴族院の緩和に助力し居るに反し還元問題に對しては寧ろ之を煽動しつゝある形跡あれば政府は此際正々堂々職責を明かにするに如かずとの方針を一定したるものゝ如し(東京特電)

兩派提携政府に肉薄

兵器賣却問題決議發表

貴族院に於ける兵器賣却問題に對する幸俱樂部の態度は二十六日夜決定したるが其の結果高木、田の兩男は該決議を齎らし研究會幹部と交涉を重ね愈兩派歩調を一にし邁進するに決し兵器賣却に關し政府が從來執り來れる行爲は不當なり速かに適當の方法を採り不法なきを期すべし」といふ意味の決議を爲す由にて二十八日臨時軍事費豫算を議了すると同時に附帶決議として發表を見るべし(東京特電)

南滿洲支那人恐慌

增稅反對の暴民諸所に蜂起す

滿洲の支那人間には昨今種々の謠言行はれ且つ安東縣其の他にて爆彈發見されし爲め今にも大動亂發生するが如く噂され關東州鐵道附屬地等に避難するもの漸く多く鐵嶺唯一の富豪[illegible]鄭吉は一家を擧げて大連に移住せり增稅反對の暴民諸所に蜂起し長春收稅局は暴民一千餘名の襲擊を受け人心恟々形勢不穩なり(大連特電)

前大統領ルーズヴェルト氏の朝鮮統治評

統治の宜しきを得たるに驚嘆す

大隈首相は先般米國より歸朝したる澁澤男爵を主賓とし朝野の名士を此程官邸に招き同男の演說を求めたるが男の演說中「予が滯米中前大統領ルーズヴェルト氏に會見したる際同氏は予は今朝鮮總督府最近の報告書を繙みたるが其の統治の宜しきを得たるに驚嘆せり予は元來日本の植民政策には幾分の杞憂を抱きゐたるが今や全く其杞憂を去れりと口を極めて其成功を賞讃せり」(東京特電)

瀆職罪上奏案

純無所屬大庭茂馬氏は在野黨各派議員の贊成を得て二十七日衆議院に瀆職罪檢擧に關する上奏案を提出せり(東京特電)

毛皮注文と邦商

露國は多額の毛皮を注文し滿洲各地毛皮商皆活動を開始せるが京城の毛皮商與田某は之を一手に引受けんとし運動中なり(奉天特電)

秦皇白河解氷

暖氣の爲め秦皇島白河の結氷解け流氷盛んにて同方面の航海危險なりと(奉天特電)

川上理事北京行

川上滿鐵理事は吉長鐵道借款解約其の他の用件にて愈々來月三日出發北京に赴くことに決定せり尙同問題に關して交涉の任に當る支那側の委員は交通部參事同吉長鐵道總辦等にて何れも日本の實情に精通せる人々なれば萬事好都合に進捗すべし(大連特電)

兩武官釜山發

東上中の白井、森の二武官は二十七日夕新羅丸にて着釜午後十一時發列車にて京城に向へり(釜山特電)

雜報

東拓移民(一) 江景方面の成績

東拓會社の殖民事業中江景出張所管內に於ける成績を(一)移住民の各自の成績と(二)移住民の地方に及ぼせる効果とに分ちて順次紹介すべし

▲移住民各自の成績

▲耕種法改良と收穫調製の改良

移住民の事業經營中別して耕種法及收穫物調製の改良は鮮人從來の方法に一大進歩を加へたるのみならず同じ移住民にありても地方に依り農法の極めて集約なるものと割合粗笨なるものとの差異あるも漸次優良移民の成績に依り改良せられつゝあるを見る例せば佐賀熊本地方出身の移住民は農作中にても特に米作に對しては他の府縣より遙かに進歩し居るが如く植付には概して正條法を應用し又肥料の如き原肥としては必ず厩肥又は堆肥の施用を重要視するに對し移民中未だ正條植の方法をすら知得せざる者をして漸次此方法の有利なるを會得せしむるが如き、或は海岸に近く半農半漁し、又は山國の田に乏しく畑作を專らとせる地方の移住民は米作に對する智識經驗も自然充分ならぬもの尠からざるに拘らず一旦移住民として是等優良移民と相接するに至れば直ちに其方法を實行し得て農業に對する進歩改良の効果は到底內地各地方の漸進的なるの比にあらず、即ち管內移住民總數(第一回より第五回に至る)二百二十五戸中正條植を實行する者論山郡夫赤面扶餘郡鴻山面の各移住民を主とし約五割、實行面積約百町歩に及べり)肥料は移住初年は調製の準備立たざると之が調製の暇なき爲め概ね大豆粕、過燐酸等の如き金肥を施用するに止まれども大豆粕の如き主に作物の生育に有効にして土地肥培の效十分ならざるのみならず鮮地の如き材料豐富にして容易に之を採集し得らるゝ場所にありては成べく金肥を廢し堆肥又は厩肥の如き完全肥料を施用するの有利なるを指示し、又同じ有機肥料にても大豆粕は少くも一反歩に對し二圓內外(約十貫)過燐酸三十五六錢(約三貫)を要するに對し、青刈大豆紫雲英の如きを栽培すれば五六十錢の費用を以て優に二反歩の肥料を施用し得る方法を會得し現今に至りては此種の肥料は大に普及せられ、堆肥厩肥の如きも信用團體、江景團體、恭原團體、中枢團體の各團員、論山郡夫赤面の各單獨移民、扶餘郡鴻山面の六等張飼、恩山面の渡邊豐吉、石川女隈山、川太郎一等十數戸に限り專ら之を實行し、將來益々增加するの傾向を生じたり

鐵道乘客好況

本年一月中旬に於ける旅客及び手小荷物運輸狀況は既に報道せる如くなるが前年同旬に比較し乘車人員に於て二萬六千六百七十二人即ち二割強、收入に於て二萬三千百八十圓即ち三割弱の增加を示し頗る好況を呈せる理由を聞くに財界不振に基因せる一般旅客の交通不良狀態の漸く改善せられたると內地運帶旅客の數の增加したる等は本旬分好況の一理由たるべしと雖ども其の主因は寧ろ前年同期の異常なる不振に職由するものゝ如し則ち前年同旬は[illegible]外十二日の降雨に引續き翌十三日から數日間近年未曾有の酷寒來襲し交通に至深の痛擊を與へたるを以て客車收入の如き連日漸く五六千圓臺を支持するに過ぎざりしに本旬は之に反し氣候の温暖なると近時稀に見る處なりし等の爲め前年同旬との差額を大ならしむるに至りしなりと又手小荷物に於ても頗る好況にして前年同旬に比し六萬八千五百三十七斤即ち二割五分弱の增加を見たり、之れは主として釜山、馬山發鮮魚類輸送數量の增加に依るものにして即ち本旬分の鮮魚類小荷物數量二十萬二千三百斤、前年同旬分十六萬三千三百斤なるを以て增加したる差額三萬九千斤となる、其の他は一般旅客の增加に伴ふ手小荷物輸送の好況に依るべし

臺灣共進會へ出品

通商上の參考品

臺灣勸業共進會

四月六日より開催の筈なる臺灣勸業共進會に對し、總督府にては鮮內の產業に關する各種の施設狀況を圖表、寫眞、模型及び事業成績品等に依りて出陳し、又一般出品は朝鮮の特產物中主として將來通商上參考となる可きもの並に前記情勢を審にす可き生產物を選び、目下取纏中なるが各個の零細なる出品は之れを勸誘せざる方針なりと、今其出品物を概說せば左の如し

▲施設狀況 產業(農商工部)重なる產業機關(勸業模範場、中央試驗所)

▲農產物 米、大豆、棉花、繭、人參及び其製品、煙草及び其生產品

▲林產物 重なるもの

▲水產物 乾魚及鹹魚、主なる標本

▲鑛產物 主なる鑛石及び製煉品

▲工產物 織物、陶器、螺鈿細工、莞草製品、金銀細工、皮革及び其製品

賣店と休憩所

純朝鮮式建築

臺灣勸業共進會に對する朝鮮よりの出品は前記の通りなるが其れ等の出品物中、將來通商上有望なりと認むるものは別に賣店を設け、此處に陳列して即賣を爲し廣く紹介に努むることゝなれり、而して此店は面積二十坪を占め五彩陸離たる李朝時代に於ける純朝鮮式建築にて既に大體の計畫を了れり、又其附近に設置す可き接待室は建坪面積十坪なるも景福宮內承華樓に欽敬閣を折衷考案せる朝鮮式建物にて華麗人目を奪ふ可く、中には朝鮮婦人を置き人蔘茶を振舞ふ趣向なりと

勳章佩用允許

露國皇帝陛下は今回寺內總督に對し金剛石裝飾神聖アレキサンドル、ネウスキー勳章を贈與あらせられ、又森海軍武官に神聖スタニスラス第一等勳章を、池邊秘書官、大藤副官兩氏に神聖スタニスラス第二等勳章を贈與あらせられたるは既報の如くなるが、何れも此程其勳章を受領し及び佩用するを允許あらせられたり

松村少將一行入京

目下仁川に入港中なる練習艦隊司令長官海軍少將松村龍雄氏磐手艦長同大佐飯田久恒氏吾妻艦長同百武三郎氏參謀佐藤大佐同左近司中佐は二十七日午後入京一兩日滯在の由

師團獸醫部會議

第九師團獸醫部長可兒一等獸醫正は在陸軍獸醫を召集し二十七日及び二十八日の二日に涉り獸醫會議を師團司令部に於て開かる、二十九日三十日の兩日は各獸醫同行水原の農場及び李王職牧場へ出張視察する由

甲種海員採用試驗

遞信局に於ては來二月一日仁川海事出張所に於て甲種各種海員の採用試驗を行ふ筈なれば志願者は本月末日限り願書を遞信局海事課に提出すべしと

人事消息

▲松村龍雄氏(海軍少將練習艦隊司令長官)▲飯田久恒氏(海軍大佐吾妻艦長)▲百武三郎氏(海軍大佐磐手艦長)▲佐藤三郎氏(海軍中佐參謀)▲左近司政三氏(海軍中佐參謀) 二十七日午後入京朝鮮ホテルへ投宿

▲上田泰輔氏(滿鐵秘書役) 二十七日午後入京朝鮮ホテルへ投宿

▲齋藤金藏氏(開城警察署長) 二十七日午前入京

年前は大連にも少からず破落ついてゐたものなるが第一次革命當時より漸次各方面へ退散し天晴天下の志士[illegible]無駄骨折して舞戻った連中も時代遲れの支那服姿に豚尾ぶら下げてゐては世間が相手にしてくれず[illegible]日本の軍隊に空豪傑の浪人の活動を必要とせざるにぞ彼等何れも[illegible]▲手前[illegible]多少はありしが是等も今回の南方革命勃發に際し又々如何なる謀反を起したものか相前後して何處へか姿を[illegible]

[illegible]等女學校にては本年生五十名を募集す可く已に平壤尋常及び高等小學生徒にして入學希望者半ばに達し居る[illegible]結果自然入學生の學力程度は從來より向上すべしと期待されつゝ有り尙同校は本年を以て第一回の卒業式[illegible]

[illegible]後入時京城櫻井町一丁目百四十一番地の空小舍(勸農洞岩間某の所有)より發火し大事に至らんとせるを附近[illegible]

新譯註釋 蜂谷柳莊 太田三郎畫伯裝幀

新譯碧巖錄

現代的譯文を以て註釋を加へ通俗簡明行文流麗其幽玄なる興趣を釋く所謂古註の味噌臭きを脫ひ鋭ろ俗解を施す即ち新譯の名ある所以也現代に於て最も理解し易き碧巖錄は本書を措て他に無し希くは下足を稱き深邃なる禪趣を味ひ給へ(御注文の際は郵券代用不苦候)

(最新刊)ポケット天金總布製函入 定價金壹圓 送料十二錢

發兌 東京 大阪屋號書店出版部 京城本町二丁目(電話二〇八六番) 大阪屋 振替京城二五七三番 同店 旅順・鐵嶺・大連・釜山

▲謹告

歐洲戰亂以來諸原料騰貴の爲め當業者の苦痛不成一方候處最近に至り益々暴騰を來し候に就ては止を得ず値上げ實行致し候間事情御洞察の上不相變御用命の程奉希上候

追而日々騰貴の趨勢に候へば御注文の都度值段御協議願度候

大正五年一月

京城印刷同業組合

京城紙文房具組合

迷信禍福號

婦人之友二月號

迷信と禍福……羽仁もと子(卷頭十四頁にわたる大文字、人生に於ける迷信と禍福の關係を說て情理兼到る)

婦人解放の誤 三宅博士(人形の家に對して女天下あり妻が人形か、夫が奴隸か依例觀察奇警立論穩健)

迷信の誘惑

恐るべき實例

▲千針の腹卷きから不治の病 ▲古ひを信じて結婚した人たち ▲弟子を困らす先生の迷信 ▲西洋に行はるゝ迷信の色々 ▲家庭の圓滿を妨ぐる辨財天 ▲親と迷信娘の生涯を誤まる ▲四十二の二つ子の迷信から ▲優しい華のためにヒステリー ▲事の起りは美容の長じゆばん

模範的婦人用語(當選發表)

長篇小說 朝の歌 佐藤紅綠(健全な波瀾の多い人情の機微を穿った大評判の家庭小說愈よ佳境に入る)

家計の研究 每號掲載 ▲收入が半減して却て貯金が出來ました ▲一期ふして家計の心配が無くなりました ▲一日廿五錢の副食物費と其獻立表 ▲砂糖は何んなのが一番德用でせうか

特別附錄 新式早縫の秘傳 簡單造花の仕方

(定價十八錢郵稅一錢半年分郵稅共一圓十五錢) 東京市外雜司ケ谷 振替東京一六〇〇 婦人之友社

無害無毒

朝鮮總督府法定消毒劑

アイゼル

猩紅熱其他傳染病豫防新藥

宜壽堂 井上藥品部 鐘路 電話八一一五七

…あるが之れが救濟策として該費用を各省に割當て分擔せしむることゝし

◎滿洲浪人の退散

滿洲名物の所謂支那浪人なるもの數…に際會せりとて…し革命黨に馳加はり…徒に犬死せる者もあり…込み凄まじく吾も吾もと山東へ押渡…つたれど日露戰爭時代と違つて今は…の上となり其後新陳代謝せる浪人も…下に不運を嘲つ身…(大連)

◎滿洲の平野に一大航空演習

廿九日宇品出發＝奉天にて擧行

陸軍航空大隊にては今回軍事上の見地より北部滿洲の地に臨時航空機研究委員を派遣し約二箇月間彼の地に滯在し極寒に對する發動機の耐久力及燃料機械油の凍結防止法を研究し併せて操縦者の防寒設備及空中に於ける健康狀態其他を研究なさしむる事となれり委員は井上交通旅團長陸軍省其他工兵隊の將校之に任じ操縦者は岡大尉澤田坂本武田伊庭川上の五中尉に決し一行は二十八日中に宇品に集合二十九日同港發大連に到着直ちに汽車にて奉天に赴き同地にて約四日間豫備飛行を行ひ機の調整宜しきを見たる上一週間飛行演習を爲す筈なり（東京電報）

◎黄興慨然南下す

モルガンより借入れた二百萬元

黄興入京説は東京革命黨員間に盛に傳へられしが二十三日午後八時より支那革命黨員七十餘名東京驛に詰懸け間もなく刑事の尾行せる一名の紳士入り來り是等革命黨員に送られ同八時三十分東京驛發下關行列車にて一同の健康と成功とを祈りつゝ出發したり該支那人こそ實に去る十六日地洋丸にて

□横濱に入港したる黄興其人□

にして地洋丸入港當時は黄興は乘船し居らずと傳へられしが近は世を忍ぶ同氏が殊更に同士をして言觸らさしめしものにして黄興は變名の下に同船にて來朝し直に入京し居たるもの黄興は曩にクルップ性腸炎に罹り桑港に於て養生中革命の機運愈々熟し來りしを以て自己の替馬として劉某を桑港に殘し以て世を晦まし佛國巴里に趣き

□お雪夫人の夫たりし故モルガン氏の實兄に當るジョージモルガン氏より二百萬元を借入れ□

之を懷にし南洋に渡航し昨年十月組織したる革命黨聯合會首領岑春煊を始め李烈鈞、柏文蔚、蔡鍔の首謀者等と會見し打合を爲せる上愈々右諸氏を支那内地に入込ましめ直に革命の旗を雲南に擧ぐべき旨を命じ置き自分は孫逸仙に會見し一致協同事に當らん爲め先月十六日密に入京し本郷南坂ホテルに投宿爾來二十一日まで數回に亙りて孫と密議を重ねたるが孫は第二次革命の如く一同自己の部下となりて働くにあらねば諸君と行動を共にせずと言明したれば

□黄は最早是までなりと孫文と何等關係するところなく□

自己等の手に於て計畫の企を飽くまで遂行すべく決心し二十三日いよいよ香港なる岑春煊の下を指して出發せるものなりと（東京特電）

◎候補生二十四時

未來の提督も今は水兵に伍して

二十六日仁川來航の練習艦隊には九十五名の少尉候補生が乘組んで居るつい先達在學三箇年の間兵學校の教程を了へて來た許りの可愛い腕白盛りの坊ちやん達が短いジヤケットに短劍を吊げて兵員と共に色々な作業や操練を習つて居る記者は旗艦磐手に候補生の主任指導官たる松崎少佐を訪ひ其日常の勤務や生活振りを聞いた

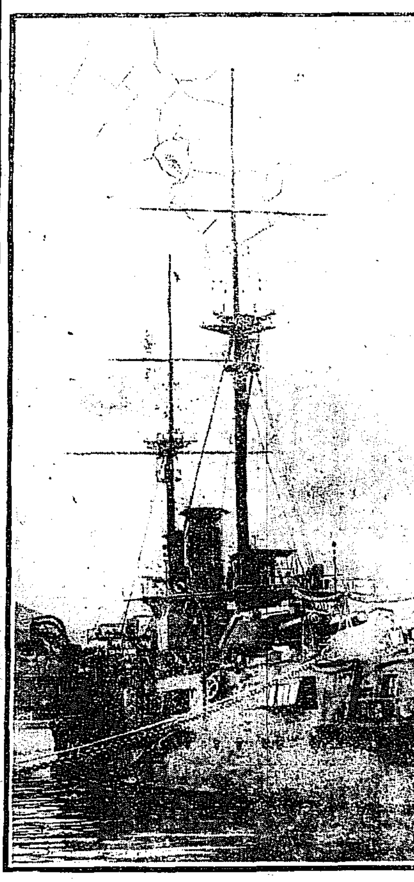
△起床　朝は七時十五分、艦内に響き渡る一聲の喇叭に快い曉の夢を破られてハンモックより飛び下り操艦其の整頓を終て甲板で徒手體操をやるかさもないと端艇の操術などをやり或時には兵員の中に交つてマスト登りを行ることもある

△朝食　七時四十五分となると朝食であるが候補生の中から當番が出て食器を運ぶと兵員も手傳つてやる食事が濟むと今度は部屋の掃除をするのであるが候補生室といふても唯名許りの中甲板の舷側にカバーを以て圍らした中に幾脚の長机と腰掛とが置いてあるが机は一人に引出が一つ宛後の棚は仕切りがしてあつて此中には各自の書籍を入れてある

△點檢　が八時半、服裝が最も嚴重に調べられて姿勢の惡い者には一々指導官がついて直される此時に作業の質問も出るといふ風になつて居る

△作業　それから作業や操練に取掛るのであるが當直の者は作業に出ない、當直といふと甲板上の見廻り役で首からプリズムを掛けて居る當直の中でも當直と副直との二つに區別されてあるが之は士官以上の勤務で候補生はこの見習をする海軍では重要な勤務の一つとなつて居るこれは晝夜ブッ通しで少しも休まない即ち交代で勤める仕組になつて居て一直が四時間とチャンと規定されてある作業や操練には色々あつて小蒸汽や水雷艇の操方もあり其他各科に別れて練習するのであるが航海科は航海長砲術科は砲術長其他運用術や機關術と區別し其他分隊では分隊長と夫々指導官が作つて教育して居るが大體朝から晝迄に二時間晝から夕迄二時間宛練習するのである

△夕食　海軍の夕食の時間は頗る早い午後四時になれば食卓に就く其れが終ると候補生を集めて別科として信號法端艇の漕方撃劍に柔道銃劍術などを教へるがこれは兵員と交せて行らして居る場合によると夜の十時頃に科業を約一時間位行らせることもあるがこれは非常の場合に備へる爲の練習である



橋頭に冴ゆる寒月高し

◎泥棒は夜十二時前に入る

仲間同志で目星しい家の内情調査

京城にては竊盜の被害頻々として各警察にても之が犯人の檢擧に努め犯人も逐次檢擧されつゝあるが是に就き某警察官の談を聞くに竊盜の續出するは一面被害者に於て警戒不充分なるの誹りは免れぬ第一泥棒は常に市中を徘徊して彼等

▲獨特の戸口調査をなしつゝあり彼等は地の利、家の位置、戸締りの輕重等を精査したる上、日夜目星しき家の周圍を徘徊して其家の留守居不在となるの機會を窺ひつゝあるなり今京城の盜難に罹りたりといふ家につき取調ぶるに家の位置として表通りの本道路に添ひたるものより裏屋に多く

▲商家よりも官吏に多く官吏も高等官より判任官に多きは一現象なり、高等官は大低塀を廻した戸締よき官舍にて殊に書生或は下女等の傭人ある爲め家を空明きの留守にするが如き事稀れなる爲め自然泥棒の侵入することも甚だ困難なる爲め家族の多人數を以て敵の生ずること割合に少きと表通りに向きたる家多きとに依り是亦自然的に泥棒の侵入し難き樣に出來居れり更らに構造上

▲俄か立ての建築多きに上薄ッペラなる材木を以てより折角に附設したる錠前の嵌め方も杜撰なるため力を罩めてグイと引出す時は容易に引き拔き得る樣なる金具を嵌めあるもの尠からず、次は普通家族の組織上内地と異り家に老人なく夫婦者多く殊に若夫婦限りにて子供もないといふ極めて

▲氣樂なる家庭多き爲め昨今の如く寒中とは言ひながら氣候暖かなる時は活動寫眞なり或は芝居なりに夫婦打揃ふて見物に出掛くるもの尠からず、夫れが爲め自然に留守居勝になること徃々あり、泥棒は此際を勿怪の幸なりと遠慮なく大膽にも悠然と侵入するなり盜難に掛りたりといふ被害時間より見るに夜半午前一時より二時の間といふもの少く多くは午後

▲九時より十一時頃迄のものに多きより察するも大抵は家人の在宅中に竊取されたりといふもの多し斯る場合若し隣家にて時ならぬ物音に氣附けりとするも大方夫婦連れにて歸宅したるものならんと別に意にも介せず打過ぐるが普通なれば賊は大膽極まる行動を敢行して立去ること尠からず次に昨今の盜難品として現金時計指環の如きものは甚だ少く

▲殆ど衣類のみの被害なれば此際一般の警戒注意をなすと共に隣家同志にても外出の際一聲託し置くが如きは最も必要なるべく平素より幾分の人情を交換して互に外敵を防ぐは肝要なる一事なるべし

◎敍勳記念貯金

曩に敍勳されたる鎭南浦富田氏は此の光榮を記念する爲め敍勳記念貯金會なるものを設け事務員一同に五圓宛を贈與したるが同會は一箇月貯金額一圓にして滿期を六年とし會員中資金需要の場合は低利貸付をなして相互の利益を計る可く入會者現在數は事務員及び家族等を合し百數十人に達せりと

◎京城には老孃が何故多いか

職業の女と生活の節約＝誤れる思想

京城在住の内地人男子が求婚に際し幾多の事情は京城在住の娘を娶るよりも内地より迎へる方が一般に好都合で有るに反し内地に居住する男子より京城の娘に對する求婚は殆ど上流社會に限られ其數は極めて少數であつて多數の女子は矢張り京城又は

朝鮮に居住する内地人の男子と結婚

しなければ成らない然るに前に述べたる如き現象は男子をして多く内地の女を移入し來るを可しとする傾向より其の捌け口は捗々しくない而して内地に在る多くの男子又は其の家庭は朝鮮に於て生れ又成長し教育された女子を妻とし又は嫁とする事を好まざる傾あるは極めて著明の事實であつて又た内地在住者としては其の境遇及び生活狀態を解せざる處に成長した者を娶つて妻とし嫁とする事を厭ふのは無理ならぬ事であるから斯くの如き事情は日に月に成長し又老ひてゆく

婚期の女子をズン〳〵後へ後へと殘

して行くので有る斯くの如き現象は半ば自然的であつて俄に改める譯には行かない之れは各自の家庭に於て十分子女教育に意を用ゐて所謂植民地氣風なる輕佻浮薄な習性を去り眞摯な眞面目な女子を育成する事を勉めると同時に職に女子教育に從事する者も亦深く此の邊に意を用ゐる力をいたさなければなるまい然るに實際は京城の學校にはオールドミスの女教師が他校に見る能きぬ程に顏を揃へて居る成程學校としては家庭の煩累のない獨身の者を用ゐると云ふ事は其の成績の上から見て結構であるが

生徒の心性上に及す關係から云ふと

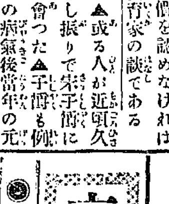
極めて好ましからざる事である現に或る生徒の談に某先生などはお嫁に行かない爲めに澤山な月給は自分で勝手に使へるし貯金もしたいと思へば貯金も出來るし良人や兒に頭を下げて仕へなくてもよし苦しい思ひをして子供など産んだり育てたりして早く老い衰へて終ふ樣な事はない獨りで樂に暮して行けるから獨身生活に限ります、如何にも世間を知らぬ若い娘の考へとしてさう行きさうな事である此の思想が若い胸に閃めくと此の問題は他日何かの場合に──即ち家庭の内に面白からぬ事が起るとか或は自分の意に滿たぬ──の場合或は大いに發育して人の爲め世の爲め等を思ふ場合必ず

胸の印象は頭を擡げて獨身主義を叫

ばしめる事になる、學校教育なども今一進歩して此の邊にまで心を用ゐる樣にならなければ駄目である、女教員に獨身主義者を用ゐる事は他日京城に於ける現在のオールドミスを作る種であるが京城以下に更に驚くべき程の多數を占めて居る勿論醜業婦は別であるが、徒に

理想の高きに走て享樂を人生の目的

とし結婚が直ちに自己に榮達を齎らす事を豫想して居る京城の若い女は禍なるかな須らく速かに眞面目に立ち歸つて老後の悔を貽さない樣に心懸けなければならぬと同時に男子の方も今少し眞面目に京城の女子なる者を解し其の眞價を認めなければ不可ないとは某教育家の談である



▲或る人が近頃久し振りで宋子爵に會つた▲子爵も例の病氣後當年の元氣は殆んど消磨し顏色蒼白別人を看るの感じがして可惜一名物を失ひはせんかと氣遣はれしたが▲會つて見れば何うして〳〵悉皆元氣を恢復し今一度揮尾の活動ありさうな有樣▲そこで何うして見違へるばかりに健康を恢復したかとの質問に▲子爵は小指を示しつゝ好な是も酒と共に全く絶縁して仕舞つて陽智の別墅に引籠り新鮮な空氣を呼吸し時々山野を跋渉し獵り獲た猪や鹿の温い生血を其場で飲る▲是れが一番の藥だ既に三頭の喫果顯著で此通りの健康となつた此の生血を飲んだ後數日を經過した牛肉の血などを飲むのとは同日の談に非らずだと▲そこでその客がすかさずどうか其生血の効能を復たも或る方面に消耗し盡さるゝ事なくんば國家の幸なりと言つたので子爵も例の元氣な大笑を漏したさうな

京城奇人傳

4 撃劍も野菜も負けるは嫌だ

天秤棒でお面!!と參りさうな八百屋

花園町は交番所の角さゝやかな店に駄菓子などを賣る家がある主人は今年四十五六の働き盛り毎日その節榑立つた腕に車を率ゐてお顧客に野菜行商を渡世して居るが面白い事には負て一度も觸れ聲をあげたとと言ひ出して値段をまけたとが無い、強て負けさせようとすれば主人は昂々然として云ふ『秋本周藏は大根でも撃劍でも負ける事は大嫌ひで御座る』と、道理こそ主人は京城野菜屋中の名物男郷里東京府下の北多摩では近藤勇の血を受けた劍客である、時たま近所の若い衆が『オイ、一本使つてお呉れ』と水を向けても『否、々、俺れの天然理心流は少々お金を貯めなきやあ始めねエ』と許り木で鼻をこする御挨拶眞面目な人には『俺のはモウ落語家の劍術です……』と謙遜する、曾て四十三年の暮に渡鮮した時には東海道五十三次を面籠手著けて武者修業爲し途中到る處の道場でお面お籠手の試合を試みたといふが『一番強い何かでハイカラ羅宇屋を始め一日二兩許りの收入もあつて當時は隨分甘い晩酌も飲めたものだが其後東小門外に六町何反かの大百姓を始めて旱魃の爲めに全然り參つた……』といふ、其の後本町五丁目邊りで百姓をやつて居た時分には毎夜四五人の官吏を對手に好きな竹刀も使つたとの談し、いざとなれば『頭日のやうに貧乏しちやあ撃劍どころの騷ぎぢやあない』と云ふけれ共天秤棒を堅めて『お面!!』と一本撃ち込まじき野菜屋である

◎高女生徒募集

平壤公立高…平安南北道は勿論滿洲方面よりも留學する者あるを以て本年は應募者非常に增加すべき見込なれば競爭試驗の…三月末日を期し…大なる式を擧ぐる由

◎櫻井町のボヤ

二十七日午…直ちに消止めたり原因は不明なるも多分乞食等の入り込み居り煙草の吸殼をその儘と爲したるものならんと

▲正誤　大正五年一月十五日及び同月二十七日發行京城日報朝刊廣告欄仁川稅關物品拂下廣告中『第八號染草』とあるは『第八號染革』の誤植に付訂正す

朝鮮總督府
一、鐵胴外式種　右購買ス詳細ハ一月二十七日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ

物品購買公告
一、細入袋　壹千八百個
此入札保證金各自入札金高ノ百分ノ五以上
右購買ス入札希望ノ者ハ本府庶務係ニ就キ入札心得書、契約書案、見本等熟覽ノ上一月二十七日午後二時限リ本府庶務係ニ入札スヘシ即時開札ス
此契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充擔當
大正五年一月二十四日　京城府

滿蒙處分論　クロパトキン將軍原著　定價金一圓　郵稅本社負擔　京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

京日案内
◎普通　一回前金三十錢(無割引)　弐行一回毎に金五錢增
◎雇入　齡十七八歲迄店員入用　希望者來談　◎陸軍用達和洋菓子商　龍山三角地娛樂園前　電三三一　石見室　298
◎小僧君入用　十三歲十五歲迄　希望の者市内に確實保證人を要す　本町二丁目卅九番地　高橋帽子店　297
◎看護婦募集　希望者は履歷書携帶本人來談あれ　南大門通三藤木商店横入　胃腸病院　296
◎外交員採用　月給拾五圓以上希望者履歷書携帶本人來談　花園町一二二　▲帝國圖書普及會支部　249
◎古本買入　誠實御報參上　京城本町一丁目(明治町筋)へ　電話二六三六番　野村書店　252
◎番外　一回前金六十錢(無割引)　二行一回毎に金九錢
姙婦產婦　御預り致升　▲經費僅少出產安全出來　申込次第入院案内書送　南山町二の卅九　△電話取次一三〇九　京城產養院　299
京城日報　初號より四十三年末迄取揃へ相當代價にて讓受たし(住所姓名在社)
皮膚病花柳病　專門　須古醫院　京城永樂町一商品陳列舘坂の上　電話二一〇三番　243
◎質　南海質店　完全なる倉庫の設備あり　京城吉野町一丁目(南海湯下降)　191
◎恩給　年金退隱料扶助料　當分法定利子以内にて即時立替　地方者便法　無手數契約　有期　京城永樂町一丁目四商品陳列舘前　江州屋本店　219
恩給年金類立替　京城武橋町二十三番地　京城日報社北右に入　電話二二八三番　國江商會　225
◎ほねつぎ　うちみ　一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場　241
大和町一丁目(日の出橋下ル)　小兒科　內科　爲春堂醫院　院主　古城佛吉　電話九二八番　267
勸業◎貯蓄債劵　買入　高價　同月賦　商業銀行の便　京城本町二丁目　電話二八三一番　債劵部　268
和洋御料理　御仕出し　祝儀並精進料理　京城大平通二丁目　京城本町一丁目府廳横(元楠)　のんき　電話二四九五番　▲材料精撰○御申付次第速達仕候　279

改造洋服販賣
洋服一組金三圓より四圓まで
オーバーコート三圓十錢より五圓十錢迄
チヨッキ一枚
本品は歐米諸國より最近輸入の上等純毛中古服に改造を加へたれば新品と同樣なり。價格低廉德用品なり
取次店希望者又は十組以上御注文の方へは特に割引御相談
東京府下千住町　東洋ランル洋服合資會社

山東原鹽
關東再製
靑島粉碎
各種販賣
仁川濱町八
鹽販賣所
電話二四〇

寫眞
寫眞用銅版、亞鉛凸版
最も迅速を旨とし技術の精巧を期し…
京城日報社　寫眞製版部

第五回決算報告

貸借對照表（大正四年下半期）

貸方（資產ノ部）

未拂込株金	四五、〇〇〇、〇〇〇
創立費	貳〇〇、〇〇〇
營業買收金	九、〇〇〇、〇〇〇
營業用品	四、七九貳、壹〇〇
家屋什器	壹、壹九壹、壹七〇
未收入金	貳六四、壹六〇
銀行預金	五九六、參參〇
現金在高	壹七〇、九六〇
合計	六壹、壹七四、七貳〇

借方（負債ノ部）

株金	六〇、〇〇〇、〇〇〇
法定積立金	參壹〇、〇〇〇
內藤未拂金	七九、貳〇〇
前期繰越金	六五、壹四〇
當期利益金	七貳〇、參八〇
合計	六壹、壹七四、七貳〇

損益勘定表

一 金七千貳百〇壹圓九拾六錢　總收入
一 金六千四百八拾壹圓五拾八錢　總支出
差引金七百貳拾圓卅八錢　當期純益金
一 金六拾五圓拾四錢　前期繰越金
合計金七百八拾五圓五拾貳錢

右處分法

一 金四拾圓　法定積立金
一 金壹百圓　創立費消却
一 金五拾圓　營業用品消却
一 金五拾圓　家屋什器消却
一 金四百五拾圓(年六朱)　株主配當
一 金九拾五圓五拾貳錢　後期繰越

右之通決算候也

大正五年壹月九日

株式會社　京城葬儀社

取締役社長　山下順平
取締役　梶原末太郎
同　小林藤右衛門
同　藤富國太郎
同　關繁太郎
支配人　中河原重吉
右調査ヲ遂ゲ正確ナル事ヲ認定候也
監査役　釘本藤次郎
同　北野竹次郎

千生瓢（109）

須藤南翠作　筒井年峰畫

長蛇を逸す（五）

淺野日向守、淺井彦八郎、赤尾孫六郎、西脇彌右衛門等の大將分を討ち取つて、無人の境を行くが如く、勝に乘じて押し進む北國勢、死を一途に期したので、猛烈の鋭鋒、當り難く見えたのであつたが、加藤虎之助清正、原彦次郎の手に馳せ向つて先づ之を踏み破り、福島市松正則も淺見但馬守を邀へ撃つて、面も振らず切り込んだ、其の敏捷なること、旋風の如くであつたので、流石の淺見も應ひ離ね、稍や浮足になつたのである。

機を見ること神の如き正則、鞍の前輪に伸び上つて

『敵は浮足になつたぞ、それ突き崩せ！』と下知を傳へた。

時に群を押し分けて、驀な地に馬を驅る勇士があつた。

『淺見殿に物申す、福島市松が郎等福島十兵衛、錆槍一つ御上申すわ』

一聲高く叫んで、群がる敵に突き込んだ。

『某は吉村又左衛門、我と思はん者は、此首取れや』

『小身なれば人は知るまい、我は市松が郎等、桂一兵衛おざるわ』

續いて斯う名乘りかけ〳〵、日疊しき勇を振つて、主將に劣らず、短兵急に攻め付けた。

但馬守きつと思案して、

『新手を以て斯う攻め付けられては此處を突き破らんこと、なかなかに思ひ寄らず。一先づ玄蕃允と一手になつて、兎も角もならう』と決心した。

で、踏立つ勢を取り纏めて、颯と引かうとしたのであつたが、それと見た市松正則、

『蓬なし但馬守、是まで參つた市松に、後を見するとは何事ぞ。其分ならば容赦はならぬわ』と、一喝して馬を進めた。

但馬守も敵に名乘りかけられて、武士道の意地、腹い引き返さうとする處に、此時遲く、彼時遲し、市松が金剛力に突き出した槍、過たず發矢と中つて、押付の板より胸板まで穗尖白く著はるゝ程、突き貫ぬかれたので、但馬守は二言となく、馬より落ちて戰死した。

既に大將を亡つた淺見が手の者、進み難ねて躊躇ふところに、福島が手勢、剩さじと切り込んだので、孰れも進退の度を失ひ、討たるゝ者數を知らず、其他は一支へも支へずして、八方に散亂し、右往左往に逃げ失せたのであつた。

一方より進んだ精屋助左衛門武則は、是れぞと思ふ敵に出會す、頻りに人數を進むる程に、遙の向ふに、味方の勢を追ひ捲つて、鋭く寄せ來る一隊の北國勢を認めた。

助左衛門武則、馬を路の高見に立てゝきつと其敵を見た。

『おゝ彼れこそ、柴田佐久間が軍奉行に、神部兵左衛門と呼ばるゝ古武士ぢや、僅かの勢を堅く備へて、逃げる敵には目もくれず、一向に深入するは、何樣本陣に切り入つて、名譽屍を横へよう氣ぢやな。天晴の武者振、敵に取つて不足はない。續くは原勘兵衛ぢやな。是れも越前方に一騎當千の勇士、この武則が槍の優劣を試すには屈強の敵ぢや。よし、よし、此處に待ち受けて、快戰を試よう』

武則は斯う呟いた。手勢を左右の林に忍ばせ、唯一騎路に當つて、寄せ來る敵を待ち受けた。

神部兵左衛門、原勘兵衛今日を限りと思ひ決めた軍とて、立つ足もなく敵を驅逐し、勢ひ烈しく進む程に、唯一騎路を遮斷る武者があつた。兵左衛門名乘りかけて突き出すに、武則心得て受け止め、二三合突き合ふ處に、原勘兵衛槍を入れた。

『無禮であらう、原勘兵衛、其處退けやツ』と、刎ね飛ばした。

此時左右の林より、精屋の手の者がどツと起つて、忽ち亂軍となつたので、兵左衛門も勘兵衛も、或ひは合し、或は離れ、精屋が爲に追ひ立てられて、兎角に退き勝ちとなつた。

新刊紹介

▲婦人雜誌（新年號）新家庭の卷とし其名にふさはしき記事を集めたり（定價金十五錢東京市日本橋區本銀町一の八婦人評論社）

▲おとめ（新年號）今年始めて生まれた雜誌で普通ありふれた女流雜誌の樣に家庭や修身の樣に固くならずさらばとて餘りに俗に陷しもしない處を行くらしい鈴仲、暗風、晗川、水陰の名も見えれば幹彦、こし子、魚萬太、勇などの名も見える健全なる發達あれ（定價金十錢東京本郷曙町三番地千章館）

▲小學生（二月號）定價金六錢東京澁谷エビス文教社

▲獨逸の軍國的施設　東西時論第二篇にして後藤男題字とし新渡部博士を會長とし龍井文學士の經營する通俗大學會編する處、ポケット用として電車汽車中の讀物として最適品（定價金十錢東京四谷區箪笥町五二通俗大學會）

▲都會生活と村落生活（建部文學博士著）兩生活の長短を論じたる後更に首府生活殊に東京生活の刺激の多く奢侈及び過度な文明弊を擧げ最後に都會生活の缺點を以て結ぶ通俗大學文庫の第四編たり（定價金三十錢東京四谷區箪笥町二通俗大學會）

商況

二月限	一二一、七〇	一二一、九〇
三月限	一二三、一〇	一二三、七〇
四月限	一二四、〇〇	一二三、六〇

▲二七日後場　大阪前止四十二錢後寄同事の入電に中十圓七十六錢先十一圓〇一錢と三錢安に寄付其鼻十圓九十九錢と迄りたるも買物多く〇三錢と跳ね返り[illegible]

▲後場動かず　大阪前場止安後寄騰らざる入電なる

▲山手賣丸ヶ買　今後場今筋の甑て買りに氣ひ依然同一手筋の大商内行はれ當に市場は同手筋に注目するに至れり

▲正米定期の崩落にて精米筋一齊に見送りたるより氣配一二十錢安見當なるも商賣一向行はれず▲大豆延安六圓六十錢小口出來氣配安人氣なるも一向商賣行はれず

移寄付　止高値　安値

十一圓〃十一圓〃十圓九十〃十一圓〃八三一一錢錢錢錢

●調理會新年宴會　三月限　四萬三千二百五十石　仁川調

●寅之助氏等の祝辭あり實に移り中昨年度の決算報告があつた別莊[illegible]

萬人必備の寶典（活社會の活字引）

大正五年國民年鑑

四六版千餘頁　定價壹圓五十錢　郵稅各十二錢

■國民年鑑は日本に於て最も新式なる且つ最も實用的なる現代無比の國民的年鑑なり即ち日本國民唯一の常識百科大辭典なり

■國民年鑑の編纂法は世界に有名なるアルマナツク又はイーヤブツクの編纂法に則り更に是れを日本的に改造したるものなり

■國民年鑑には政治、經濟、文教、軍事は素より娯樂、演藝、相撲等の雜事に至るまで大凡社會百般の事象は悉く網羅しあり

■國民年鑑は在來普通の年鑑の如く無味乾燥なる統計集に非ず其特色は始めより終りまで讀んで興味の津々たる事なり

■國民年鑑は斯るが故に政治家にも實業家にも軍人にも學生にも勞働者にも必要なり

■國民年鑑には現代及び即ち世界に活動する知名の士約二千人の小傳を揭げあれば單に一個の人名辭書として見るも其の價値は無類也

■國民年鑑は大正五年度に於て特に御大禮に關する御儀式典禮奉祝其の他諸般の事項を卷頭に揭げて國民千載の記念たらしむ

■國民年鑑の定價は僅に五十錢なり而して其頁數は四六判一千頁に餘り行數實に八萬行を越ゆ眞に是れ出版界の一大奇蹟たり

■國民年鑑を座右に備ふるは新しき年を迎へて新なる活動をなすものの最大秘訣也其の時間と勞力を節約し得る大なればなり

取次所　京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部

天覽台覽

大日本國語辭典

絕大の價値無限の賣行　今次提供の壹萬部盡れば直ちに特價販賣を撤回す

東京帝國大學文科大學長　文學博士　上田萬年　東京高師教授　松井簡治　兩先生著　直に內容見本を請求せられよ！

第一卷發行　定價六圓五拾錢（四六倍判背革角革千二百五十頁挿畫三百五十）全四卷約五千頁語數廿二萬

▼追刷壹萬部限り特價提供　特價金五圓（同上送料內地二十四錢鮮支五十五錢）

夙く國寶的大辭典の盛名を博し、僅々三旬にして壹萬部を賣盡し、追刷特價提供の壹萬部中既に六千を突破せり

一般人士の家庭に於ける絕對常備品　標準的國語大辭典　乞ふ速かに本書を備へて光輝ある新年の書齋を飾られよ

◎萬朝報曰く　前後十五年を費したる程ありて流石に立派なり[illegible]

東京神田　富山房　東京日本橋　金港堂　振替五〇一　振替八六五

（賣捌全國各地書林）

受驗者の讀まねばならぬ　新英文解釋研究

正則英語學校　山崎貞先生著　解釋の正確親切は類書に其比を見ず受驗者に絕大の便益を與ふ

受驗者の右の生きたる顧問として歡迎益々盛ん也!!　定價金七十錢　郵料八錢　四六判最新形　表裝も新意匠

英語研究社發行　賣捌全國各地書店

東京麴町區富士見町（振替東京一八二三六番）

朝鮮總督府中樞院顧問從三位勳一等子爵高永喜儀永々病氣之處本月二十五日午後十一時半薨去致候に付此段謹告仕候

追て葬儀は二月一日午前九時自宅出棺同日午前十一時前西大門外獨立門前に於て葬式相營み同二日午前十一時下棺同三十分西大門外獨立門前に於て返虎致候

大正五年一月二十六日

長男　義敬
三男　義正
親戚總代　伯兒　永周
友人總代　伯爵　李完用
子爵　朴齋純
子爵　趙重應
子爵　李容稙
子爵　閔丙爽
石塚英藏
荒井賢太郎
國分三亥
國分象太郎
小松綠

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行
相模丸　一月廿八日　正午出帆
竹島丸　二月四日　正午出帆
高砂丸　二月十二日　正午出帆

仁川海岸町一丁目　電話十一番　堀回漕部

葬具一式

造花、生花、花環、寄贈品裝飾品、其他供物一切　親切丁寧は本社の主旨に候間御用命奉希上候

京城永樂町二丁目　大葬社　電話一〇五六番

電話一五六七番　旭町二丁目（名古屋城下）　株式會社　京城葬儀社

本社は支店出張所等無之に付御用の節は直接御用命願上候　二月限

靈柩馬車の設備有之候　中河原重吉　井上芳太郎　電話九五七番

葬具萬般幹頓罷在り斯業に經驗深き者專ら業に當り如何なる御儀式にも決して差閊無之候

京城大和町一丁目（總監部通）　大和葬儀舍　電話二四三八番

大阪商船仁川出帆

○外航所屬船は（迂回航路を除く）[illegible]連絡切符發賣仕候

羣山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行
油頭丸　一月卅一日　午後五時出帆
天草丸　一月　十日　午後五時出帆
平壤丸　一月三十日

○木浦、釜山、長崎行（△は[illegible]）
安東丸　二月　九日　午後二時出帆
城津丸　一月卅一日

大連行
安東丸　二月　五日　午後二時出帆
城津丸　一月廿八日

群山、神戸、大阪行
大智丸　二月　五日　後五時出帆

群山、釜山、横濱行
チヨイサン丸　二月七日　午後四時出帆
潮州丸　一月卅日

大連直行
潮州丸　一月卅一日　正午出帆
チヨイサン丸　二月三日

天津、浦潮行（元山出帆）
久北丸　一月廿八日　午後二時出帆
北丸　二月八日

上海、基隆、打狗行（大連出帆）
北平丸　一月　日　午前四時出帆
平丸　二月十日

○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との船車連絡切符發賣仕候
○御乘船客は本船出帆約一時間前迄に御乘船可被下候
○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り

仁川切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話二二番二〇〇五五〇
京城切符發賣所　內國通運會社支店　電話七八〇番

中國四國沿岸各港行船客に對し當分の間門司より五割引を以て連絡乘船切符發賣仕候

共同汽船仁川出帆

共同丸　芝罘、大連行　一月三十日後二時入港　二月一日前九時出帆

城津、清津、浦鹽行（元山出帆）

第一阪鶴丸　西湖津沿岸各港を經て雄基行　月　日後九時出港

第三共同丸（元山出帆）　月　日前八時出帆

阿波國共同汽船株式會社　本町一丁目（電話一〇八番）　仁川代理店　山下回漕部　元山代理店　田口回漕部　京城取次店　河村運送店

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行
立神丸　二月　八日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行
立神丸　一月　日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行
小倉丸　一月　日後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行
小倉丸　二月　三日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
第三琴平丸　一月三十日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行
第三琴平丸　二月十　日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、郷ノ浦、博多行
大興丸　毎月三日九日十五日廿一日廿六日　午後十時出帆

大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸　一月　日後四時出帆
大有丸　一月廿八日後四時出帆
神代丸　二月四日後四時出帆
蛟龍丸　二月卅一日後四時出帆
君が代丸　一月　日後四時出帆

仁川海岸通二丁目電話五十九番　富杉回漕部

朝鮮郵船

全羅丸　二月十二日
京畿丸　二月十二日
黃海丸　二月十六日
咸鏡丸　二月　六日
釜山發

穩城丸　二月　三日
昌平丸　二月　一日
鏡城丸　一月廿八日
元山發

永興丸　每月廿八日　元山發
咸鏡丸　一月廿九日　釜山發
江陵丸　毎日　釜山（浦項）發
三浦丸　二月　二日　釜山發
海州丸
硫黄丸　持　釜山發
順天丸　三日目毎　木浦發
慶興丸　一月廿八日　木浦發
公州丸　二月　一日　木浦發
公州丸　二月　二日　木浦發
全州丸　一月廿九日　仁川發
江原丸　二月　五日　仁川發
旅水丸　二月　二日　仁川發
晋州丸　一月廿八日　仁川發
錦江丸　毎日午前　仁川發
南陽丸
午安丸　二月　三日　群山發　若松發

京城南大門前　松原運送店